

改訂後				現行			
資料-1 提出書類の様式				資料-1 提出書類の様式			
提出書類一覧表				提出書類一覧表			
提出書類	提出部数	提出期日	備考	提出書類	提出部数	提出期日	備考
1 施工計画書（工程表） （資格者証等写し、雇用の分かる証明書）				1 施工計画書（工程表） （資格者証等写し、雇用の分かる証明書）			
2 技術者配置状況表				2 技術者配置状況表			
<u>3</u> <u>（現場代理人・主任技術者）兼務届</u>	<u>1部</u>	<u>契約後5日以内</u>	<u>水道部ホームページに掲載</u>	<u>（新設）</u>			
<u>4</u> 着工届				<u>3</u> 着工届			
<u>5</u> 工事カルテ受領書（CO R I N S）				<u>4</u> 工事カルテ受領書（CO R I N S）			
<u>6</u> 試掘調査結果報告書 地下埋設物確認書				<u>5</u> 試掘調査結果報告書 地下埋設物確認書			
<u>7</u> <u>工事打合簿</u>	2部（1部返却）	必要の都度	（様式-5）	<u>6</u> <u>承諾願（施工計画書）</u>	2部（1部返却）	必要の都度	（様式-2）
<u>8</u> 施工計画書	2部（1部返却） <u>（1.4.1記載工事は省略できる）</u>	施工前	（様式-2の1～9）	<u>7</u> 施工計画書	2部（1部返却） <u>（契約金額130万円以下は省略）</u>	施工前	（様式-3の1～9）
<u>9</u> 再生資源利用計画書 再生資源利用促進計画書				<u>8</u> 再生資源利用計画書 再生資源利用促進計画書			
<u>10</u> 下請報告書（建設業許可指令書写し、注文書 <u>又は</u> 注文請書写し、内訳書）下記 <u>11, 12, 13</u> も添付				<u>9</u> 下請報告書（建設業許可指令書写し、注文書 <u>或</u> 注文請書写し、内訳書）下記 <u>10, 11, 12</u> も添付			
<u>11</u> 施工体系図				<u>10</u> 施工体系図			
<u>12</u> 施工体制台帳（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）				<u>11</u> 施工体制台帳（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）			
<u>13</u> 再下請通知書（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）				<u>12</u> 再下請通知書（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）			

改訂後				現行			
<u>14</u> 現場代理人等変更通知書	<u>1</u> 部	<u>必要の都度</u>	<u>水道部ホームページに掲載</u>	<u>(新設)</u>			
<u>15</u> 工事日誌	1部 (FAX <u>又はメールでも可</u>)	施工中毎日	(様式- <u>3</u>)	<u>13</u> 工事日誌	1部 (FAX <u>でも可</u>)	施工中毎日	(様式- <u>4</u>)
<u>16</u> 継手チェックシート	1部 (FAX <u>又はメールでも可</u>)	施工中毎日	(様式- <u>4</u> の1~6)	<u>14</u> 継手チェックシート	1部 (FAX <u>でも可</u>)	施工中毎日	(様式- <u>5</u> の1~6)
<u>(削除)</u>				<u>15</u> 工事に関する協議書	<u>2部 (1部返却)</u>	<u>必要の都度</u>	<u>(様式-6)</u>
<u>(削除)</u>				<u>16</u> 工事に関する承諾書 (製品、材料、その他)	<u>2部 (1部返却)</u>	<u>必要の都度</u>	<u>(様式-7)</u>
<u>(削除)</u>				<u>17</u> 工事に関する指示書	<u>2部 (1部返却)</u>	<u>必要の都度</u>	<u>(様式-8)</u>
<u>17</u> 事故報告書			(様式- <u>6</u>)	<u>18</u> 事故報告書			(様式- <u>9</u>)
<u>18</u> 工事履行報告書				<u>19</u> 工事履行報告書			
<u>19</u> 認定請求書				<u>20</u> 認定請求書			
<u>20</u> 工事出来形部分検査申請書				<u>21</u> 工事出来形部分検査申請書			
<u>21</u> 工事出来形部分内訳書				<u>22</u> 工事出来形部分内訳書			
<u>22</u> 完成届				<u>23</u> 完成届			
<u>23</u> 出来形管理図表	2部	完成日から5日以内	(様式- <u>7</u> の1~11)	<u>24</u> 出来形管理図表	2部	完成日から5日以内	(様式- <u>10</u> の1~11)
<u>24</u> 工事完成図				<u>25</u> 工事完成図			
<u>25</u> 工事写真帳	監督員が指示する部数	完成日から5日以内	第6章(様式- <u>8</u>)	<u>26</u> 工事写真帳	監督員が指示する部数	完成日から5日以内	第6章(様式- <u>11</u>)
<u>26</u> 品質管理書類				<u>27</u> 品質管理書類			
<u>27</u> 再生資源利用実施書 再生資源利用促進実施書 工事登録証明書				<u>28</u> 再生資源利用実施書 再生資源利用促進実施書 工事登録証明書			
<u>28</u> 産業廃棄物管理票 (マニユフェスト)				<u>29</u> 産業廃棄物管理票 (マニユフェスト)			
<u>29</u> 納品書・材料伝票等				<u>30</u> 納品書・材料伝票等			
<u>30</u> 引渡書				<u>31</u> 引渡書			
<u>31</u> 請求書	<u>1</u> 部	<u>検査合格後速やかに</u>	<u>水道部ホームページに掲載</u>	<u>(新設)</u>			

改訂後				現行			
<u>32 保証書返還請求書</u>	<u>1部</u>	<u>検査合格後速やかに</u>	<u>水道部ホームページに掲載</u>	<u>(新設)</u>			
<u>(削除)</u>				<u>32 現場代理人等変更通知書</u>	<u>1部</u>	<u>必要の都度</u>	<u>水道部ホームページに掲載</u>
33 その他当部が必要とする書類				33 その他当部が必要とする書類			

改訂後	現行
<p>(様式-2の1)</p> <p style="text-align: center;">施 工 計 画 書</p> <p>下記に掲げる事項のうち、監督員より指示されたものを提出すること。</p> <p>1 __ 工事概要 (様式-2の2)</p> <p>2 __ 案内図及び全体計画図</p> <p>3 __ 実施工程表</p> <p>4 __ 施工方法</p> <p>5 __ 出来形管理計画</p> <p>6 __ 品質管理計画</p> <p>7 __ 配管材料一覧表 (様式-2の3)</p> <p>8 __ 主要資材一覧表 (様式-2の4)</p> <p>9 __ 主要機械一覧表 (様式-2の5)</p> <p>10 __ 現場組織表 (様式-2の6)</p> <p>11 __ 安全衛生管理</p> <p>12 __ 安全衛生管理組織表 (様式-2の7)</p> <p>13 __ 緊急時連絡表 (様式-2の8)</p> <p>14 __ 安全施設 (仮設備等)</p> <p>15 __ 運搬路、機械設備、電気設備、火薬類、ガス作業員の安全教育等について</p> <p>16 __ 資格者及び技能講習修了者等名簿及び資格証明書のコピー (様式-2の9)</p> <p>17 __ 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書</p>	<p>(様式-3の1)</p> <p style="text-align: center;">施 工 計 画 書</p> <p>下記に掲げる事項のうち、監督員より指示されたものを提出すること。</p> <p>1 __ 工事概要 (様式-3の2)</p> <p>2 __ 案内図及び全体計画図</p> <p>3 __ 実施工程表</p> <p>4 __ 施工方法</p> <p>5 __ 出来形管理計画</p> <p>6 __ 品質管理計画</p> <p>7 __ 配管材料一覧表 (様式-3の3)</p> <p>8 __ 主要資材一覧表 (様式-3の4)</p> <p>9 __ 主要機械一覧表 (様式-3の5)</p> <p>10 __ 現場組織表 (様式-3の6)</p> <p>11 __ 安全衛生管理</p> <p>12 __ 安全衛生管理組織表 (様式-3の7)</p> <p>13 __ 緊急時連絡表 (様式-3の8)</p> <p>14 __ 安全施設 (仮設備等)</p> <p>15 __ 運搬路、機械設備、電気設備、火薬類、ガス作業員の安全教育等について</p> <p>16 __ 資格者及び技能講習修了者等名簿及び資格証明書のコピー (様式-3の9)</p> <p>17 __ 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書</p>

改訂後

現行

(様式-2の2)

1 工事概要 (例)

(1) 工事概要

工事名	
工事場所	
工期	(元号)年 月 日 ~ (元号)年 月 日
請負金額	¥
発注者	青森市公営企業管理者企業局長
受注者	〇〇株式会社 TEL 現場代理人 □□ □□

(2) 主要工事内容

工種		管種・口径	単位	数量	摘要
布設	配水管	DGXE_ φ150	m	240	
	〃	DKE_ φ150	〃	5	
	〃	DGXE_ φ100	〃	7	
	〃	PP φ50	〃	7	
設置	仕切弁	GX形ツグ両受 φ150 10k	基	1	
	〃	SS弁 φ150 7.5k	〃	3	
	〃	SS弁 φ100 7.5k	〃	1	
	〃	SS弁 φ75 7.5k	〃	2	消火栓用1基 排水用1基
	〃	SS弁(V・Sツグ) φ50 7.5k	〃	1	

(様式-3の2)

1 工事概要 (例)

(1) 工事概要

工事名	
工事場所	
工期	(元号)年 月 日 ~ (元号)年 月 日
請負金額	¥
発注者	青森市公営企業管理者企業局長
受注者	〇〇株式会社 TEL 現場代理人 □□ □□

(2) 主要工事内容

工種		管種・口径	単位	数量	摘要
布設	配水管	DGXE-S φ150	m	240	
	〃	DKE-3 φ150	〃	5	
	〃	DGXE-S φ100	〃	7	
	〃	PP φ50	〃	7	
設置	仕切弁	GX形ツグ両受 φ150 10k	基	1	
	〃	SS弁 φ150 7.5k	〃	3	
	〃	SS弁 φ100 7.5k	〃	1	
	〃	SS弁 φ75 7.5k	〃	2	消火栓用1基 排水用1基
	〃	SS弁(V・Sツグ) φ50 7.5k	〃	1	

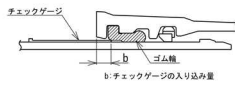
改訂後	現行
(様式-2の3) <u>配管材料一覧表</u> (例) (略)	(様式-3の3) <u>配管材料一覧表</u> (例) (略)
(様式-2の4) <u>主要資材一覧表</u> (例) (略)	(様式-3の4) <u>主要資材一覧表</u> (例) (略)
(様式-2の5) <u>主要機械一覧表</u> (例) (略)	(様式-3の5) <u>主要機械一覧表</u> (例) (略)
(様式-2の6) <u>現場組織表</u> (例) (略)	(様式-3の6) <u>現場組織表</u> (例) (略)
(様式-2の7) <u>安全衛生管理組織表</u> (例) (略)	(様式-3の7) <u>安全衛生管理組織表</u> (例) (略)
(様式-2の8) <u>緊急時連絡表</u> (例) (略)	(様式-3の8) <u>緊急時連絡表</u> (例) (略)
(様式-2の9) <u>資格者及び技能講習修了者等名簿</u> (例) (略)	(様式-3の9) <u>資格者及び技能講習修了者等名簿</u> (例) (略)
(様式-3) 工事日誌 (略)	(様式-4) 工事日誌 (略)

(様式-4の1)

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・P-Link・G-Link】

工 事 名	
配管図 No.・測点 No.	~
呼び径・管種	
施工期間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日

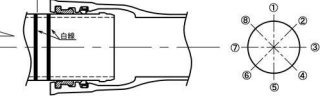
1 直管



b寸法の合格範囲

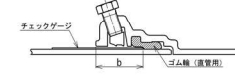
呼び径	合格範囲 (mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
350	14~25
400	14~25
450	14~25

2



3 P-Link

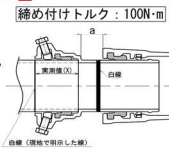
締め付けトルク: 100N・m



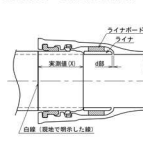
b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	54~63
100	57~66
150	57~66
200	63~72
250	63~72
300	70~80

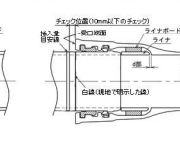
4



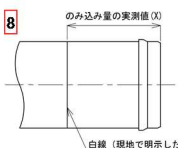
5



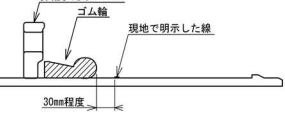
6



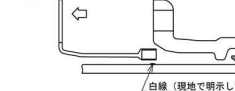
7 異形管



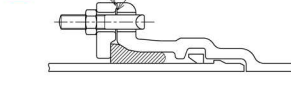
9



10 ストップを引き抜く

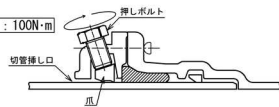


11



12 G-Linkを使用する場合

締め付けトルク: 100N・m



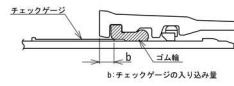
- 判断基準:
- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
 - ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
 - ※3 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
 - ※4 接合直後にマーキング (白線) 位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 - ※5 挿入量目安線 (赤線) と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
 - ※6 挿し口外周～受口端面位置の白線を表示したか確認する。
 - ※7 挿し口を異形管受口に挿入し、ストップを取り外した後、挿し口を上下左右に振って抜けないことを確認する。
 - ※8 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
 - ※9 一方から順次配管していく場合にはL寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。
 - ※10 P-Linkの場合は受口端面からの直部長さ4 a寸法を記入する。

(様式-5の1)

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・P-Link・G-Link】

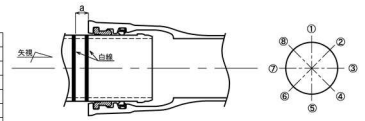
工 事 名	
配管図 No.・測点 No.	~
呼び径・管種	
施工期間	(元号) 年 月 日 ~ (元号) 年 月 日

直管



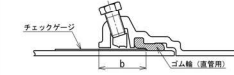
b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
400	14~25



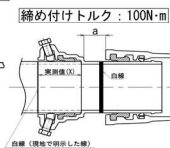
P-Link

締め付けトルク: 100N・m

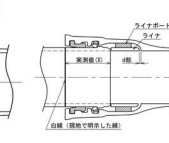


b寸法の合格範囲

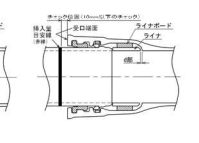
呼び径	合格範囲 (mm)
75	54~63
100	57~66
150	57~66
200	63~72
250	63~72
300	70~80



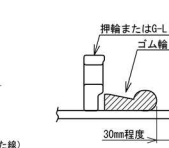
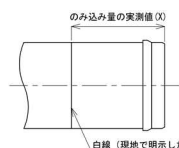
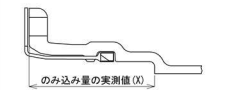
5



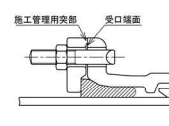
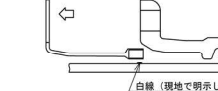
6



異形管

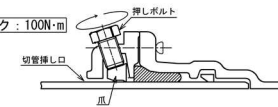


ストップを引き抜く



G-Linkを使用する場合

締め付けトルク: 100N・m

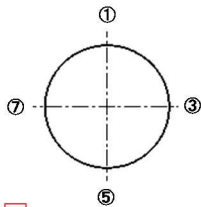
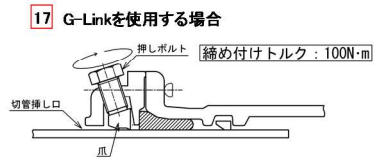
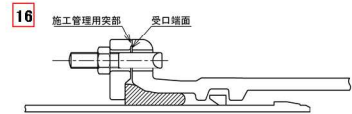
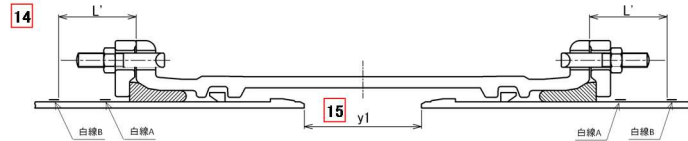


- 判断基準:
- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
 - ※2 受口端面～ゴム輪間隔 (b) が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
 - ※3 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
 - ※4 接合直後にマーキング (白線) 位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 - ※5 挿入量目安線 (赤線) と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
 - ※6 挿し口を異形管受口に挿入し、ストップを取り外した後、挿し口を上下左右に振って抜けないことを確認する。
 - ※7 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
 - ※8 一方から順次配管していく場合にはL寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

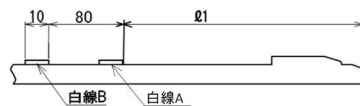
(様式-4の2)

GX形継手チェックシート【継輪】

工 事 名	
配 管 図 No.・測 点 No.	~
呼 び 径 ・ 管 種	
施 工 期 間	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日



呼び径	単位mm Ø1+80
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275
300	305
350	315
400	320
450	325



(i) 一方から順次配管していく場合

呼び径	単位mm L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
350	145
400	150
450	155

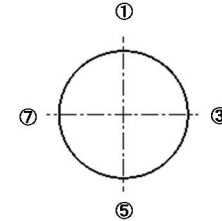
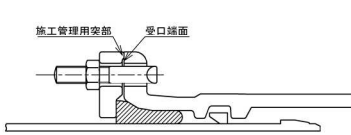
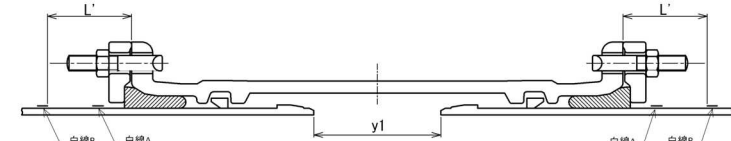
(ii) せめ配管の場合

呼び径	単位mm Y
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
350	300
400	300
450	300

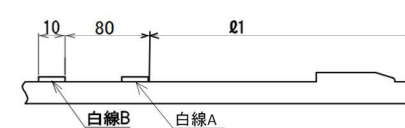
(様式-5の2)

GX形継手チェックシート【継輪】

工 事 名	
配 管 図 No.・測 点 No.	~
呼 び 径 ・ 管 種	
施 工 期 間	(元号) 年 月 日 ~ (元号) 年 月 日



呼び径	単位mm Ø1+80
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275
300	305
400	320



(i) 一方から順次配管していく場合

呼び径	単位mm L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
400	150

(ii) せめ配管の場合

呼び径	単位mm y1
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
400	300

改訂後

(様式-4の3) (No.)

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link(φ75~450)共通】									
工 事 名		現場代理人		配管作業主任者		配管技士			
配管図 No.・測点 No.									
呼び径・管種									
施 工 月 日									
管Noおよび形状									
略 図									
挿し口突部の有無※1									
清掃・異物の除去									
滑 剤									
接着剤使用の有無(フランジガasket)									
受口溝(ロックリング)・ストップの確認									
挿し口の挿入量の明示									
白線A,Bの明示									
直管・ライナ・P-リンク	受口面～ゴム輪 間隔(b)※2	全周チェック							
		①							
		②							
		③							
		④							
		⑤							
		⑥							
		⑦							
直管・フランジ・P-リンク	受口面～白線 間隔(a) (フランジ継手RF-GF メタルタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
直管・P-リンク	ライナ位置の確認(d部)※3 マーキング(白線)位置の確認※4 挿入量目安線(白線)受口端面 間隔の確認(異形管継輪、口径5 フランジ(白線)の明示 (異形管継輪)※6	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
異形管・継輪	ストップの引き抜き								
異形管・継輪	T頭ボルト 受口端面～ 施工管理用突部 の間隔※8	本数							
		箇所数							
継輪	両挿し口端の 間隔(y1)※9	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
継輪	受口端面～ 白線の間隔 (L')※9	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)								
G-Link・継輪用特殊押輪	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認								
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	押しボルト(100N・m) (フランジは全6ヶ)	本数							
		トク確認							
判 定									
備 考									

現 行

(様式-5の3) (No.)

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link(φ75~400)共通】									
工 事 名		現場代理人		配管作業主任者		配管技士			
配管図 No.・測点 No.									
呼び径・管種									
施 工 月 日									
管Noおよび形状									
略 図									
挿し口突部の有無※1									
清掃・異物の除去									
滑 剤									
接着剤使用の有無(フランジガasket)									
受口溝(ロックリング)・ストップの確認									
挿し口の挿入量の明示									
白線A,Bの明示									
直管・ライナ・P-リンク	受口面～ゴム輪 間隔(b)※2	全周チェック							
		①							
		②							
		③							
		④							
		⑤							
		⑥							
		⑦							
直管・フランジ・P-リンク	受口面～白線 間隔(a) (フランジ継手RF-GF メタルタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
直管・P-リンク	ライナ位置の確認(d部)※3 マーキング(白線)位置の確認※4 挿入量目安線(白線)受口端面 間隔の確認(異形管継輪、口径5 フランジ(白線)の明示 (異形管継輪)※6	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
異形管・継輪	ストップの引き抜き								
異形管・継輪	T頭ボルト 受口端面～ 施工管理用突部 の間隔※7	本数							
		箇所数							
継輪	両挿し口端の 間隔(y1)※8	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
継輪	受口端面～ 白線の間隔 (L')※8	①							
		③							
		⑤							
		⑦							
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)								
G-Link・継輪用特殊押輪	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認								
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	押しボルト(100N・m) (フランジは全6ヶ)	本数							
		トク確認							
判 定									
備 考									

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link(φ75~450)共通】			
工事名		現場代理人	配管作業主任者
配管図No・測点No			
呼び径・管種			
施工月日			
管Noおよび形状			
略図			
挿し口突部の有無※1		挿し口突部の「有」「無」の区別を記入する。※挿し口突部が「無」の場合には、P-Linkもしくは挿し口リングを使用する。	
清掃・異物の除去		接合要領書に従って、管を清掃したら「OK」を記入する。	-
滑剤		接合要領書に従って、滑剤を塗布したら「OK」を記入する。	-
接着剤使用の有無(フランジガasket)		ガasketの仮止めに接着剤を使用したら「有」、使用しなければ「無」を記入する。	-
受口溝(ロックリング)・ストッパの確認		接合要領書に従って、受口溝、ロックリング、ロックリングおよびストッパを確認したら「OK」を記入する。	-
挿し口の挿入量の明示		のみ込み量の実測値(X)を白線で明示したら「OK」を記入する。(P-Link・ライ付直管受口の場合)	4 5 7 8
白線A,Bの明示		白線A,Bを明示したら「OK」を記入する。(切管挿し口に接合する場合)	
直管・ライナ・P-Link	受口面～ゴム輪間隔(b)※2	全周チェック ① 全周にわたって寸法が合格範囲に入っていれば「OK」を記入する。 ② ③ ④ ⑤ ① 3のように入口端面からゴム輪までの間隔(b)(mm)を記入する。 ⑥ ⑦ ⑧	1 3
	受口面～白線間隔(a) (フランジ継手RF-GF マルチタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	① ② ②のように入口端面から白線Bまでの間隔(a)(mm)を記入する。または、④のように入口端面からP-Link直部受口端までの間隔(a)(mm)を記入する。 ③ フランジ継手RF-GFの場合、フランジ面間のすきまに1mm厚のすきまゲージが入らなければ「OK」を記入する。 ④ ⑤ ⑥ ⑦	2 4
	ライナ位置の確認(d部)※3	ライナが受口奥部に当たっていたら「OK」を記入する。	5 6
	マーキング(白線)位置の確認※4	マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあれば「OK」を記入する。	6
	挿入量目安線(赤線)と受口端面距離が全周にわたり10mm以下であれば「OK」を記入する。	6	
	マーキング(白線)の明示 (異形管挿し口)※5	挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら「OK」を記入する。	6
	ストッパの引き抜き	ストッパを引き抜いたら「OK」を記入する。	10
	抜き出しチェック(挿し口突部)※7	接合要領書に従って、挿し口が抜け出さないことを確認したら「OK」を記入する。	-
T頭ボルト	本数	締め付けたT頭ボルトの本数(本)を記入する。	
受口端面～ 施工管理用突部の 隙間※8	箇所数	押輪の施工管理用突部と受口端面の隙間を隙間ゲージで確認した箇所数(箇所)を記入する。	11 16
	隙間ゲージ確認	接合要領書に従って、隙間がないことを隙間ゲージで確認したら「OK」を記入する。	
継輪	両挿し口端の間隔(y1)※9	① ② ③ ③ 両挿し口の間隔(y1)(mm)を記入する。(せめ配管の場合) ④ ⑤ ⑥ ⑦	15
	受口端面～ 白線の間隔(L')※9	① ② ③ ③ 挿し口白線Bと受口端面の間隔(L')(mm)を記入する。(順次配管の場合) ④ ⑤ ⑥ ⑦	14
	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)	接合要領書に従って、爪および押しボルトを確認したら「OK」を記入する。	4 12 17
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認	接合要領書に従って、ゴム輪、押輪またはG-Linkを確認したら「OK」を記入する。	9
押しボルト(100N・m) (フランジは全周)	本数	締め付けたボルトの本数(本)を記入する。	
	トルク確認	ボルトを既定のトルクで締め付けられ「OK」を記入する。	4 12 17
判定		全てのチェック項目を満足していれば「OK」を記入する。	-
備考			

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link(φ75~400)共通】			
工事名		現場代理人	配管作業主任者
配管図No・測点No			
呼び径・管種			
施工月日			
管Noおよび形状			
略図			
挿し口突部の有無※1		挿し口突部の「有」「無」の区別を記入する。※挿し口突部が「無」の場合には、P-Linkもしくは挿し口リングを使用する。	
清掃・異物の除去		接合要領書に従って、管を清掃したら「OK」を記入する。	-
滑剤		接合要領書に従って、滑剤を塗布したら「OK」を記入する。	-
接着剤使用の有無(フランジガasket)		ガasketの仮止めに接着剤を使用したら「有」、使用しなければ「無」を記入する。	-
受口溝(ロックリング)・ストッパの確認		接合要領書に従って、受口溝、ロックリング、ロックリングおよびストッパを確認したら「OK」を記入する。	-
挿し口の挿入量の明示		のみ込み量の実測値(X)を白線で明示したら「OK」を記入する。(P-Link・ライ付直管受口の場合)	
白線A,Bの明示		白線A,Bを明示したら「OK」を記入する。(切管挿し口に接合する場合)	
直管・ライナ・P-Link	受口面～ゴム輪間隔(b)※2	全周チェック ① 全周にわたって寸法が合格範囲に入っていれば「OK」を記入する。 ② ③ ④ ⑤ ⑤ 受口端面からゴム輪までの間隔(b)(mm)を記入する。 ⑥ ⑦ ⑧	
	受口面～白線間隔(a) (フランジ継手RF-GF マルチタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	① ② 受口端面から白線Bまでの間隔(a)(mm)を記入する。または、受口端面からP-Link直部受口端までの間隔(a)(mm)を記入する。 ③ フランジ継手RF-GFの場合、フランジ面間のすきまに1mm厚のすきまゲージが入らなければ「OK」を記入する。 ④ ⑤ ⑥ ⑦	
	ライナ位置の確認(d部)※3	ライナが受口奥部に当たっていたら「OK」を記入する。	
	マーキング(白線)位置の確認※4	マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあれば「OK」を記入する。	
	挿入量目安線(赤線)と受口端面距離が全周にわたり10mm以下であれば「OK」を記入する。		
	マーキング(白線)の明示 (異形管挿し口)※5	挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら「OK」を記入する。	
	ストッパの引き抜き	ストッパを引き抜いたら「OK」を記入する。	
	抜き出しチェック(挿し口突部)※6	接合要領書に従って、挿し口が抜け出さないことを確認したら「OK」を記入する。	
T頭ボルト	本数	締め付けたT頭ボルトの本数(本)を記入する。	
受口端面～ 施工管理用突部の 隙間※7	箇所数	押輪の施工管理用突部と受口端面の隙間を隙間ゲージで確認した箇所数(箇所)を記入する。	
	隙間ゲージ確認	接合要領書に従って、隙間がないことを隙間ゲージで確認したら「OK」を記入する。	
継輪	両挿し口端の間隔(y1)※8	① ② ③ ③ 両挿し口の間隔(y1)(mm)を記入する。(せめ配管の場合) ④ ⑤ ⑥ ⑦	
	受口端面～ 白線の間隔(L')※8	① ② ③ ③ 挿し口白線Bと受口端面の間隔(L')(mm)を記入する。(順次配管の場合) ④ ⑤ ⑥ ⑦	
	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)	接合要領書に従って、爪および押しボルトを確認したら「OK」を記入する。	
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認	接合要領書に従って、ゴム輪、押輪またはG-Linkを確認したら「OK」を記入する。	
押しボルト(100N・m) (フランジは全周)	本数	締め付けたボルトの本数(本)を記入する。	
	トルク確認	ボルトを既定のトルクで締め付けられ「OK」を記入する。	
判定		全てのチェック項目を満足していれば「OK」を記入する。	
備考			

改訂後		現行	
(様式-4の4)	NS形直管チェックシート(φ500～φ1000) (略)	(様式-5の4)	NS形直管チェックシート(φ500～φ1000) (略)
(様式-4の5)	NS形直管(ライナ使用)・異形管チェックシート(φ500～φ1000) (略)	(様式-5の5)	NS形直管(ライナ使用)・異形管チェックシート(φ500～φ1000) (略)
(様式-4の6)	NS形継ぎ輪チェックシート(φ500～φ1000) (略)	(様式-5の6)	NS形継ぎ輪チェックシート(φ500～φ1000) (略)

改訂後

(様式-5)

工事打合簿

発議者	<input type="checkbox"/> 発注者 <input type="checkbox"/> 受注者	発議年月日	年 月 日
発議事項	<input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 届出 <input type="checkbox"/> その他 ()		
契約番号	受注者名		
工事名	(内容)		
添付図 葉、その他添付図書			
処理・回答	発注者	上記について <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 受理 します。 <input type="checkbox"/> その他 [] 年 月 日	
	受注者	上記について <input type="checkbox"/> 了解 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> 届出 します。 <input type="checkbox"/> その他 [] 年 月 日	

課長	主任 監督員	監督員

現場 代理人	主任 (監理) 技術者

現行

(様式-2)

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

承 諾 願	契 約 第 号 番 号
(元号) 年 月 日	
青森市公営企業管理者企業局長 様	
住 所 受注者 氏 名 印	
(元号) 年 月 日に契約しました『〇〇地区配水管布設工事』 の下記事項についてご承諾願います。	
記	
施工計画書	
(元号) 年 月 日	
印	訂 正 有 ・ 無

改訂後

(削除)

現行

(様式-6)

工 事 に 関 す る 協 議 書									
契 約 番 号	第 号		(元号) 年 月 日						
工 事 名							受 注 者		
工 期	(元号) 年 月 日 ~				(元号) 年 月 日				
協 議 事 項									
摘 要									
上 記 事 項 に つ い て 協 議 し ま す。									
代 表 者			現 場 代 理 人			主 任 技 術 者			
課 長			副 参 事			チ-ム リ-ダ-	主 任 監 督 員		監 督 員

改訂後

(削除)

現 行

(様式-7)

工 事 に 関 す る 承 諾 書							
契 約 番 号	第	号	(元号) 年 月 日				
工 事 名				受 注 者			
工 期	(元号) 年 月 日			～	(元号) 年 月 日		
承 諾 事 項							
上 記 事 項 に つ い て 承 諾 願 い ま す。							
代 表 者		現 場 代 理 人		主 任 技 術 者			
上 記 事 項 に つ い て 承 諾 し ま し た。							
課 長		副 参 事		チ-ム リ-ダ-		主 任 監 督 員	監 督 員

改訂後

(削除)

(様式-6) 事故報告書
(略)

現行

(様式-8)

工 事 に 関 す る 指 示 書							
契 約 番 号	第	号	(元号) 年 月 日				
工事名					受注者		
工 期	(元号) 年 月 日			～	(元号) 年 月 日		
指 示 事 項							
上 記 事 項 に つ い て 指 示 し ま す。							
課 長		副 参 事		チ-ム リ-ダ-		主任 監 督 員	監 督 員
上 記 事 項 に つ い て 承 諾 し ま し た。							
代 表 者				現 場 代 理 人			主 任 技 術 者

(様式-9) 事故報告書
(略)

改訂後

(様式-7の1)

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

出来形管理図表

契 約 番 号	
(元号)	年 月 日

青森市公営企業管理者企業局長 様

住所
受注者
氏名 印

(元号) 年 月 日に契約しました『〇〇地区配水管更新工事』の
下記事項について出来形管理図表を提出します。

記

- 1. 工事数量表
- 2. 平面図・配管立体図
- 3. オフセット図
- 4. 掘削土工・土被り管理図表
(削除)
- 5. 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表
- 6. 路盤検査結果表
- 7. 舗装工管理図表
- 8. オーバーレイ工管理図表
- 9. 切取供試体厚さ測定管理図表

現行

(様式-10の1)

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

出来形管理図表

契 約 番 号	第 号
(元号)	年 月 日

青森市公営企業管理者企業局長 様

住所
受注者
氏名 印

(元号) 年 月 日に契約しました『〇〇地区配水管布設工事』の
下記事項について 管理図表を提出します。

記

- 1. 工事数量表
- 2. 平面図・配管立体図
- 3. オフセット図
- 4. 掘削土工・土被り管理図表
- 5. 基礎砕石工管理図表
- 6. 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表
- 7. 路盤検査結果表
- 8. 舗装工管理図表
- 9. オーバーレイ工管理図表
- 10. 切取供試体厚さ測定管理図表

改訂後

(様式-7の2)

1. 工事数量表 (例)

主任技術者 _____ 印
 現場代理人 _____ 印
 測定者 _____ 印

工種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘要
布設	配水管 DGXE_	φ150	m	240.0	240.5	+0.5	
	" DKE_	φ150	"	5.0	5.3	+0.3	
	" DGXE_	φ100	"	7.0	7.3	+0.3	
	" PP	φ50	"	7.0	7.3	+0.3	
設置	仕切弁 GX形フタ両受	φ150 10k	基	1	1	0	
	" SS弁	φ150 7.5k	"	3	3	0	
	" SS弁	φ100 7.5k	"	1	1	0	
	" SS弁	φ75 7.5k	"	2	2	0	消火栓用1基 排水用1基
	" SS弁 (V・Sフタ)	φ50 7.5k	"	1	1	0	

設計値—黒書
 実測値—朱書

※布設延長の実測値は小数点以下第2位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。

現行

(様式-10の2)

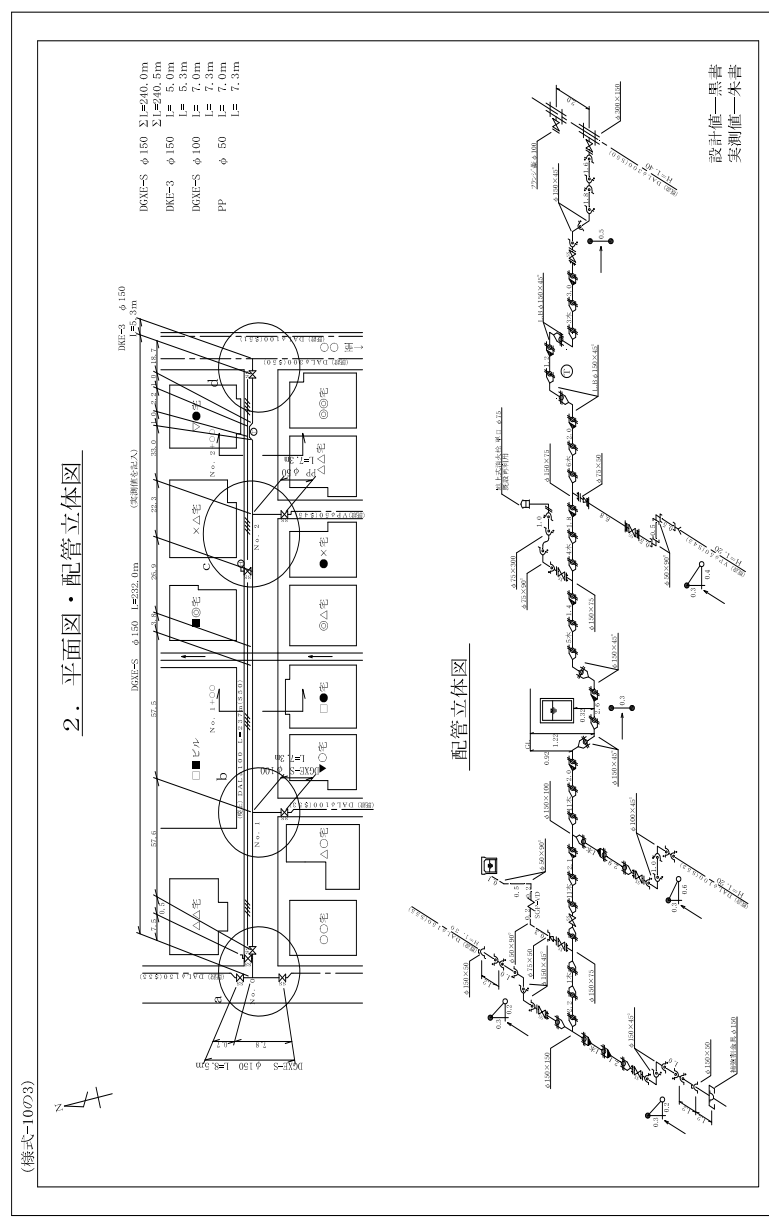
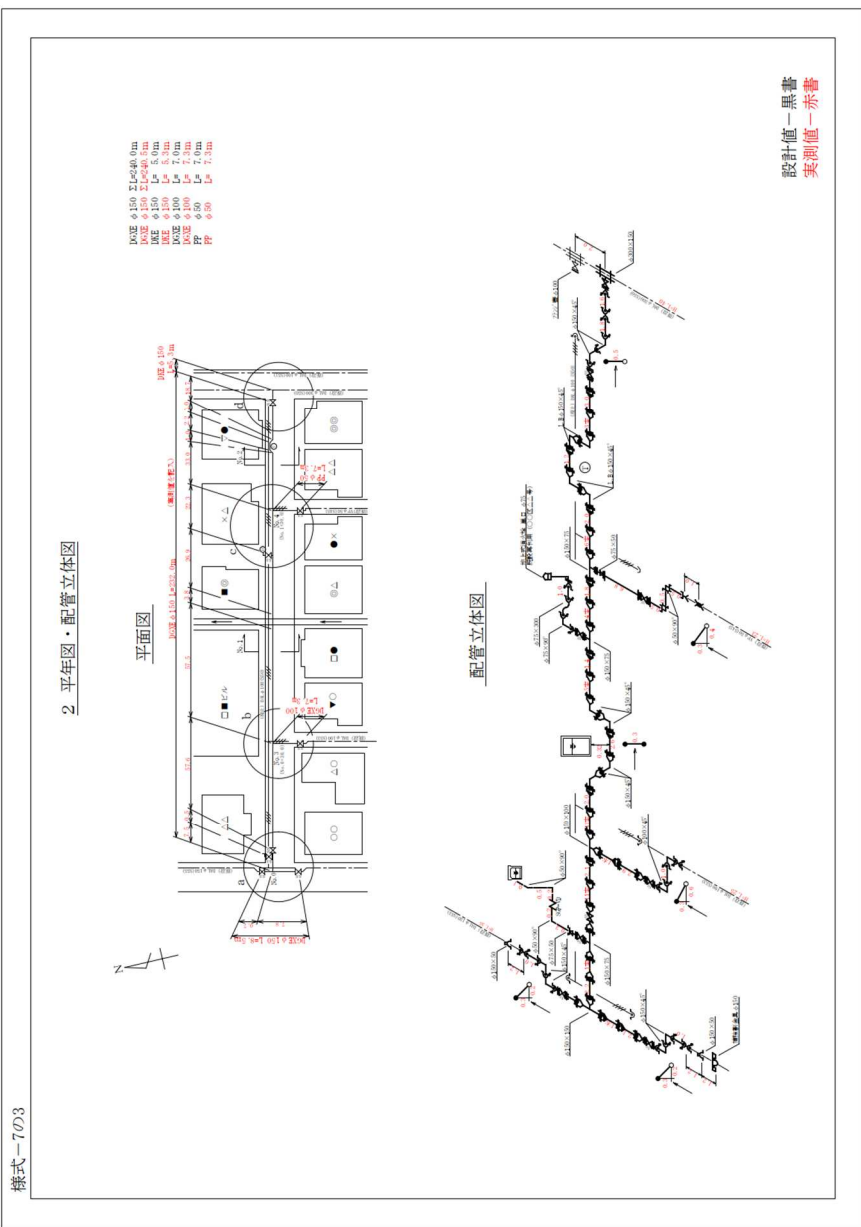
1. 工事数量表 (例)

主任技術者 _____ 印
 現場代理人 _____ 印
 測定者 _____ 印

工種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘要
布設	配水管 DGXE-S	φ150	m	240.0	240.5	+0.5	
	" DKE-3	φ150	"	5.0	5.3	+0.3	
	" DGXE-S	φ100	"	7.0	7.3	+0.3	
	" PP	φ50	"	7.0	7.3	+0.3	
設置	仕切弁 GX形フタ両受	φ150 10k	基	1	1	0	
	" SS弁	φ150 7.5k	"	3	3	0	
	" SS弁	φ100 7.5k	"	1	1	0	
	" SS弁	φ75 7.5k	"	2	2	0	消火栓用1基 排水用1基
	" SS弁 (V・Sフタ)	φ50 7.5k	"	1	1	0	

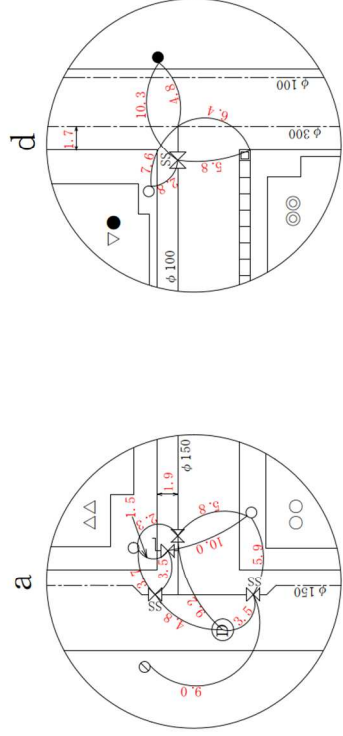
設計値—黒書
 実測値—朱書

※布設延長の実測値は小数点以下第2位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。



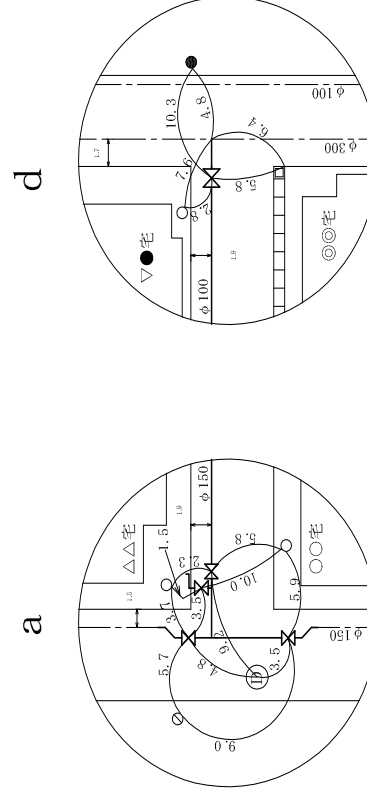
様式-7の4

3 オフセット図



(様式-10の4)

3. オフセット図

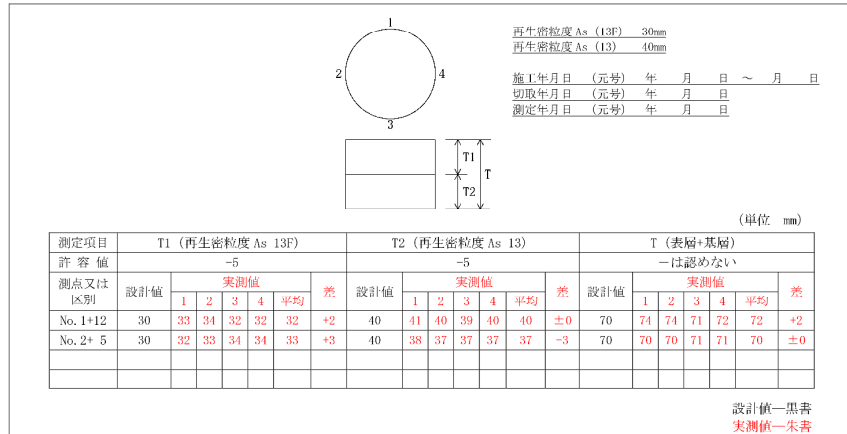


改訂後	現 行
(様式-7の5) <u>4 掘削土工・土被り管理図表</u> (例) (略)	(様式-10の5) <u>4.掘削土工・土被り管理図表</u> (例) (略)
(様式-7の6-1) <u>5 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表</u> (例) (略)	(様式-10の6-1) <u>6.埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表</u> (例) (略)
(様式-7の6-2) <u>5 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表</u> (例) (略)	(様式-10の6-2) <u>6.埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表</u> (例) (略)
(様式-7の7-1) <u>6 路 盤 検 査 結 果 表</u> (例) (略)	(様式-10の7-1) <u>7.路 盤 検 査 結 果 表</u> (例) (略)
(様式-7の7-2) <u>6 路 盤 検 査 結 果 表</u> (例) (略)	(様式-10の7-2) <u>7.路 盤 検 査 結 果 表</u> (例) (略)
(様式-7の8) <u>7 舗 装 工 管 理 図 表</u> (例) (略)	(様式-10の8) <u>8.舗 装 工 管 理 図 表</u> (例) (略)
(様式-7の9) <u>8 オーバーレイ工管理図表</u> (例) (略)	(様式-10の9) <u>9.オーバーレイ工管理図表</u> (例) (略)
(様式-7の10) <u>8 オーバーレイ工管理図表</u> (例) (略)	(様式-10の10) <u>9.オーバーレイ工管理図表</u> (例) (略)

改訂後

(様式-7の11)

9 切取供試体厚さ測定管理図表

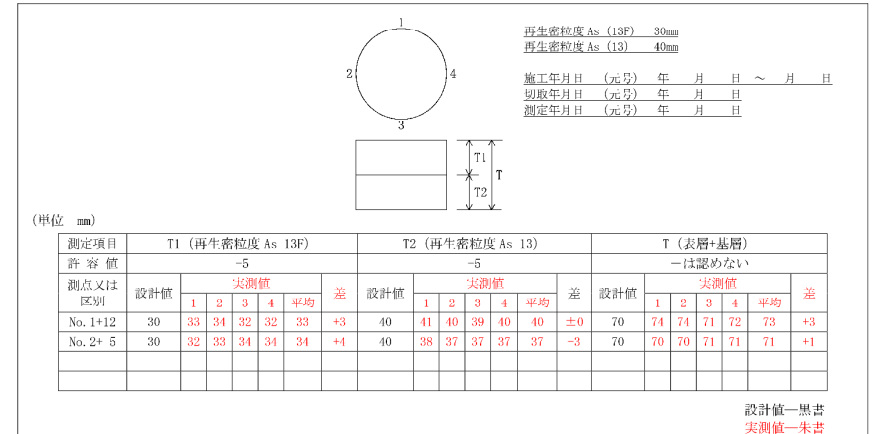


※実測値の平均は小数点以下を切り捨てること。

現行

(様式-10の11)

9.切取供試体厚さ測定管理図



(新設)

改訂後

(様式-8) 工事写真帳

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

工事写真帳

契約番号 (元号) 年度 _____

工事名 _____

工事場所 _____

工期 着工 (元号) 年 月 日

竣工 (元号) 年 月 日
※着工・竣工の日付は契約工期を記入すること。

施工者 _____

現行

(様式-11) 工事写真帳

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

工事写真帳

契約番号 (元号) 年度 _____ 第 _____ 号

工事名 _____

工事場所 _____

工期 着工 (元号) 年 月 日

竣工 (元号) 年 月 日
※着工・竣工の日付は契約工期を記入すること。

施工者 _____

改訂後	現行
<p style="text-align: center;">配管工事施工管理基準</p> <p>1～4 (略)</p> <p>5 施工管理項目及び方法</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 出来形管理 受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表<u>を</u>作成し、管理するものとする。</p> <p>(3) (略)</p> <p>6～7 (略)</p> <p>※本仕様書で規定していない許容値及び基準については、青森県<u>県</u>土整備部「土木工事施工管理基準<u>及び規格値</u>」及び日本水道協会水道工事標準仕様書【土木工事編】に準ずる。</p>	<p style="text-align: center;">配管工事施工管理基準</p> <p>1～4 (略)</p> <p>5 施工管理項目及び方法</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 出来形管理 受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表<u>作成し</u>、管理するものとする。</p> <p>(3) (略)</p> <p>6～7 (略)</p> <p>※本仕様書で規定していない許容値及び基準については、青森県<u>土</u>整備部「土木工事施工管理基準<u> </u>」及び日本水道協会水道工事標準仕様書【土木工事編】に準ずる。</p>

改訂後

資料-2
保安施設

1 工事名表示板

【標準型】



【注意事項】

- ① ゴシック表示とする。
- ② 色彩は青色文字、黒色文字、白色文字、青線、黒線、地を白色とする。
- ③ 「何の目的」で工事を実施しているかをわかりやすく表示する。(表示例参照)
- ④ 契約工期の工事終了日のみを表示し、大きな文字で強調する。
- ⑤ () は夜間作業を伴う場合のみ表示する。
- ⑥ 施工区間は 10m 単位で表示する。
- ⑦ 請負額を四捨五入し万円単位で表示する。
- ⑧ 外枠の余白は 2cm、枠線の太さは 1cm とする。
- ⑨ 工事名標示板については、施工計画書に記載し監督員の承諾を得ること。

現行

資料-2
保安施設

1 工事名表示板

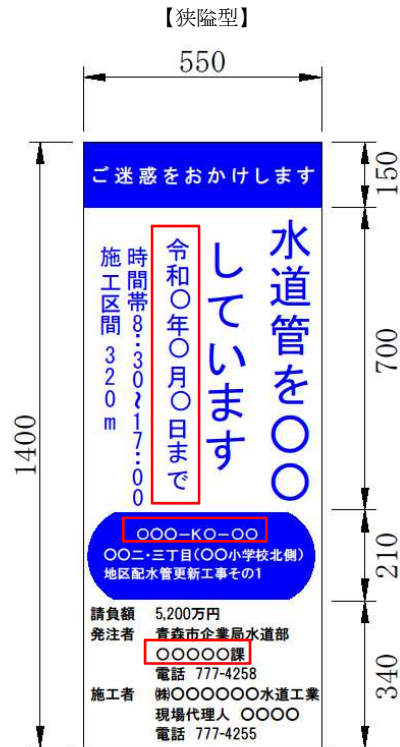
【標準型】



【注意事項】

- ① ゴシック表示とする。
- ② 色彩は青色文字、黒色文字、白色文字、青線、黒線、地を白色とする。
- ③ 「何の目的」で工事を実施しているかをわかりやすく表示する。(表示例参照)
- ④ 契約工期の工事終了日のみを表示し、大きな文字で強調する。
- ⑤ () は夜間作業を伴う場合のみ表示する。
- ⑥ 施工区間は 10m 単位で表示する。
- ⑦ 請負額を四捨五入し万円単位で表示する。
- ⑧ 外枠の余白は 2cm、枠線の太さは 1cm とする。
- ⑨ 工事名標示板については、施工計画書に記載し監督員の承諾を得ること。

改訂後



【表示例】

- ① 水道管を更新しています
- ② 水道管を移設しています
- ③ 水道管を新しく布設しています
- ④ その他の表示については監督員と協議すること

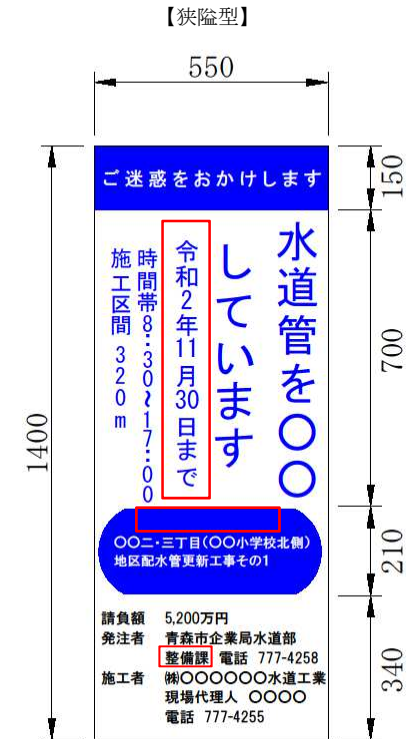
2 占用許可表示

占用許可の表示については、地上施設物及び地下埋設物占有者の様式に従い作成すること。また、工事関係者及び公衆の見やすい場所に設置する掲示板に掲示すること。

3 その他の保安施設

その他の保安施設については、「青森県県土整備部共通仕様書（土木工事参考資料）」を準拠すること。

現行



【表示例】

- ① 水道管を更新しています
- ② 水道管を移設しています
- ③ 水道管を新しく布設しています
- ④ その他の表示については監督員と協議すること

2 占用許可表示

占用許可の表示については、地上施設物及び地下埋設物占有者の様式に従い作成すること。また、工事関係者及び公衆の見やすい場所に設置する掲示板に掲示すること。

3 その他の保安施設

その他の保安施設については、「青森県県土整備部共通仕様書（土木工事参考資料）」を準拠すること。

改訂後	現行
資料-3 標準図集 (略)	資料-3 標準図集 (略)

改訂後

資料-4
記載例集

1 施工計画書記載例

(様式-5)

(配管工事の記載例)

工事打合簿

発議者	<input type="checkbox"/> 発注者 <input checked="" type="checkbox"/> 受注者	発議年月日	令和〇年〇月〇日
発議事項	<input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 報告 <input checked="" type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 届出 <input type="checkbox"/> その他 ()		
契約番号	〇〇〇-KK-〇〇	受注者名	㈱〇〇設備工業
工事名	〇〇〇-丁目(〇〇小東側)地区配水管更新工事その1		
(内容) 令和〇年〇月〇日に契約しました上記の工事の施工計画書を提出します。			
添付図 葉、その他添付図書			
処理 回答	発注者	上記について <input type="checkbox"/> 指示 <input type="checkbox"/> 承諾 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 通知 <input type="checkbox"/> 受理 します。 <input type="checkbox"/> その他 [] 年 月 日	
	受注者	上記について <input type="checkbox"/> 了解 <input type="checkbox"/> 協議 <input type="checkbox"/> 提出 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> 届出 します。 <input type="checkbox"/> その他 [] 年 月 日	

課長	主任 監督員	監督員

現場 代理人	主任 (監理) 技術者

現行

資料-4
記載例集

1 施工計画書記載例

(様式-2)

(配管工事の記載例)

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

承諾願

契約
番号 第 KK-〇〇 号

令和 年 月 日

青森市公営企業管理者企業局長 様

住 所 青森市〇〇-丁目〇番〇号
受注者 株式会社〇〇〇設備工業
氏 名 代表取締役 〇〇 〇〇 印

令和〇年〇月〇日に契約しました『〇〇〇-丁目(〇〇〇小東側)地区配水管更新工事その1』の下記事項についてご承諾願います。

記

施工計画書

承諾	令和 年 月 日
印	訂 正 有・無

改訂後		現行			
目次		目次			
1	工事概要	P-〇〇	1	工事概要	P-126
2	案内図及び全体計画図	P-〇〇	2	案内図及び全体計画図	P-127
3	実施工程表	P-〇〇	3	実施工程表	P-129
4	施工方法	P-〇〇	4	施工方法	P-130
5	出来形管理計画	P-〇〇	5	出来形管理計画	P-153
6	品質管理計画	P-〇〇	6	品質管理計画	P-160
7	配管材料一覧表	P-〇〇	7	配管材料一覧表	P-161
8	主要資材一覧表	P-〇〇	8	主要資材一覧表	P-162
9	主要機械一覧表	P-〇〇	9	主要機械一覧表	P-163
10	現場組織表	P-〇〇	10	現場組織表	P-164
11	安全衛生管理	P-〇〇	11	安全衛生管理	P-165
12	安全衛生管理組織表	P-〇〇	12	安全衛生管理組織表	P-167
13	緊急時連絡表	P-〇〇	13	緊急時連絡表	P-168
14	安全施設（仮設備等）	P-〇〇	14	安全施設（仮設備等）	P-169
15	資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー	P-〇〇	15	資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー	P-172
16	再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書	P-〇〇	16	再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書	P-174

改訂後

(様式-2の2)

1 工事概要

(1) 工事概要

工 事 名	〇〇〇一丁目 (〇〇〇小東側) 地区配水管更新工事その1
工 事 場 所	青森市〇〇〇一丁目 地内
工 期	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
請 負 金 額	¥33,000,000 (うち消費税 ¥3,000,000)
発 注 者	青森市公営企業管理者企業局長
受 注 者	株式会社〇〇〇設備工業 TEL 017-111-1111 現場代理人 〇〇 〇〇

(2) 主要工事内容

工 種	形状・寸法	単位	数量	摘要
布 設	配水管 DGXE_ φ100	m	300	
	" DKE_ φ100	"	5	
	" PP φ50	"	380	
設 置	仕切弁 GX形ツト受挿 φ100 10k	基	1	
	" SS弁 φ100 7.5k	"	1	
	" SS弁 (VSツト) φ50 7.5k	"	5	排水用1基

現 行

(様式-3の2)

1 工事概要

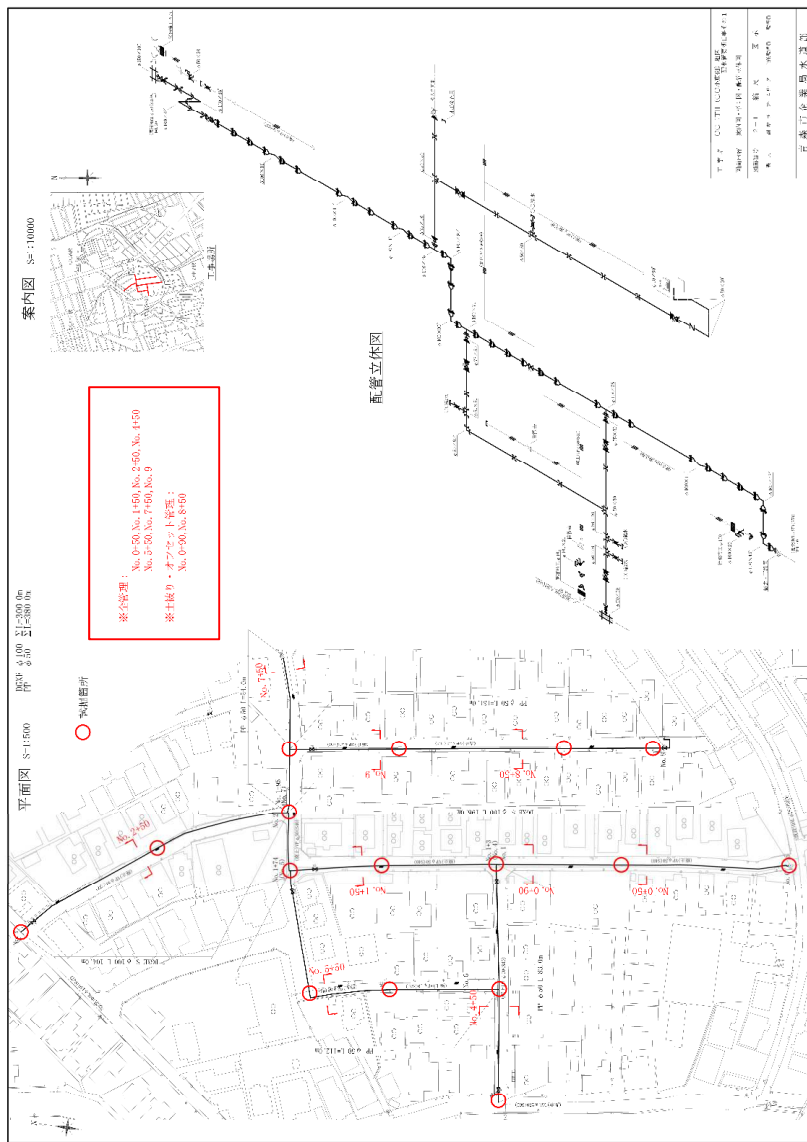
(1) 工事概要

工 事 名	〇〇〇一丁目 (〇〇〇小東側) 地区配水管更新工事その1
工 事 場 所	青森市〇〇〇一丁目 地内
工 期	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
請 負 金 額	¥33,000,000 (うち消費税 ¥3,000,000)
発 注 者	青森市公営企業管理者企業局長
受 注 者	株式会社〇〇〇設備工業 TEL 017-111-1111 現場代理人 〇〇 〇〇

(2) 主要工事内容

工 種	形状・寸法	単位	数量	摘要
布 設	配水管 DGXE-S φ100	m	300	
	" DKE -3 φ100	"	5	
	" PP φ50	"	380	
設 置	仕切弁 GX形ツト受挿 φ100 10k	基	1	
	" SS弁 φ100 7.5k	"	1	
	" SS弁 (VSツト) φ50 7.5k	"	5	排水用1基

2_案内図及び全体計画図



2_案内図及び全体計画図



改訂後	現行
<p>4 施工方法</p> <p>本工事の施工にあたっては、青森市企業局水道部「上水道配管工事標準仕様書」に準拠し、施工いたします。</p> <p>(1) 準備工 (2) 掘削工 (3) 土留工 (4) 残土処理工 (5) 管布設工 (6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工 (7) 舗装工 (8) 写真管理</p> <p>(1) 準備工 ① (略) ② 着工前写真 比較となるよう、<u>試掘調査前にNo. 点にポールを立てずに、</u>同一視点から着工前の<u>全景を入れ</u>全路線を撮影します。その際、<u>全景</u>が見えづらい時にはスパンを短くして撮影します。 ③ 現場付近居住者への説明等 施工前に監督員と協議のうえ、現場 <u>(資材置場等含む)</u> 付近居住者に対して工事内容についての具体的な説明と広報紙の配付を行い、工事について十分協力が得られるように努めます。特に、給水管連絡工<u>又は給水管取替工</u>を施工する対象者に対しては、給水管の切替や車の出入り等の詳細な説明を<u>個別</u>に行います。 <u>工事の施工上やむを得ず通行止めにするときは、現場付近居住者に対して具体的な広報と説明を行い、必要に応じて、迂回看板等の設置をします。</u> <u>工事の準備及び施工に際し、許可なく現場 (資材置場等含む) 付近居住者の敷地内及び公道に駐車したり、工事用機械器具及び材料等を置きません。</u> ④～⑤ (略) (2) 掘削工 ①～⑥ (略)</p>	<p>4. 施工方法</p> <p>本工事の施工にあたっては、青森市企業局水道部「上水道配管工事標準仕様書」に準拠し、施工いたします。</p> <p>1) 準備工 2) 掘削工 3) 土留工 4) 残土処理工 5) 配管工 6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工 7) 舗装工 8) 写真管理</p> <p>1) 準備工 ① (略) ② 着工前写真 比較となるよう、<u>No.点にポールを立て埋設位置を示し、付近の風景をいれて</u>同一視点から着工前の 全路線を撮影します。その際、<u>ポール</u>が見えづらい時にはスパンを短くして撮影します。 ③ 現場付近居住者への説明等 施工前に監督員と協議のうえ、現場 <u> </u> 付近居住者に対して工事内容についての具体的な説明と広報紙の配付を行い、工事について十分協力が得られるように努めます。特に、給水管連絡工 <u> </u> を施工する対象者に対しては、給水管の切替や車の出入り等の詳細な説明を <u> </u> 行います。 <u>(新設)</u> <u>(新設)</u> ④～⑤ (略) 2) 掘削工 ①～⑥ (略)</p>

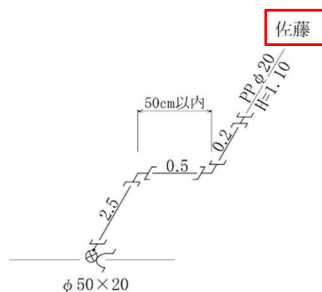
改訂後	現行
<p><u>(3) 土留工</u> ①～⑦ (略)</p> <p><u>(4) 残土処理工</u> ①～③ (略)</p> <p><u>(5) 管布設工</u></p> <p><u>(5)-1 配管技士</u></p> <p>① <u>配管技士は、自社が恒常的に雇用する者(3ヵ月以上雇用する者)を配置します。</u></p> <p>② <u>配管技士は、公益社団法人日本水道協会の配水管技能登録者(※耐震継手)を配置します。</u> <u>(注) 必要資格は工事内容によって異なる。(一般継手、耐震継手、大口径)</u></p> <p>③ <u>配管作業中は、配管技士であることを識別できるものを着用します。</u></p> <p><u>(削除)</u> <u>(削除)</u></p> <p><u>(削除)</u> <u>(削除)</u></p> <p><u>(5)-2 管の据付け</u> ①～② (略)</p> <p>③ <u>ダクタイル鋳鉄管の布設は、原則として低所から高所に受口を上に向け配管します。また、角度調整が必要なときは、管種ごとに定められている許容曲げ角度や最小曲げ半径を遵守し、無理な曲げ配管をしません。</u></p> <p>④ <u>管の据付けに当たっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定する。また、ダクタイル鋳鉄管についてはメーカーマークの中心部を上に向けて据え付けます。</u></p> <p>⑤ <u>管と既設地下埋設物との離れは、30 cm以上を保つようにします。ただし、所定の間隔が保持できないときは、速やかに監督員に報告し、その指示に従います。</u></p>	<p><u>3) 土留工</u> ①～⑦ (略)</p> <p><u>4) 残土処理工</u> ①～③ (略)</p> <p><u>5) 配管工</u></p> <p><u>5)-1 管の据え付け</u> <u>(新設)</u> <u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p>① <u>管の据付けに先立ち、管体を点検し亀裂その他の欠陥のないことを確認します。</u></p> <p>② <u>管の据付けに当たっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定するとともに、管のメーカーマークの中心部を上に向けて据え付けます。</u></p> <p>③ <u>掘削溝内に排水設備を設け、管内に土砂、汚水等が流入しないようにします。</u></p> <p>④ <u>配管作業は、自社で恒常的に雇用している配管技士を配置し、配管作業中は、配管技士であることを識別できるものを着用します。</u></p> <p><u>5)-4 管の据付け</u> ①～② (略)</p> <p>③ <u>管の布設は、原則として低所から高所に受口を上に向け配管します。また、角度調整が必要なときは、管種ごとに定められている許容曲げ角度や最小曲げ半径を遵守し、無理な曲げ配管をしません。</u></p> <p>④ <u>管の据付けに当たっては、管内部を十分清掃し、水平器、型板、水糸等を使用し、中心線及び高低を確定するとともに、管のメーカーマークの中心部を上に向けて据え付けます。</u></p> <p>⑤ <u>管と既設地下埋設物との離れは、30 cm以上を保つようにします。ただし、所定の間隔が保持できないときは、監督員の指示に従い、必要な措置を講じます。</u></p>

改訂後	現 行																																								
<p>⑥～⑨ (略)</p> <p><u>(5)-3 管の切断</u></p> <p>① (略)</p> <p>② 鋳鉄管の切管の有効長最小長さは、概ね1mとし、管種・口径毎に参考として定められている有効長の最小長さを下回らないようにし、<u>原則10cm単位で切断を行い、せめ配管等1cm単位で切断しなければならない場合は、完成図面の表示は1cm単位で表示します</u>。ただし、それが困難な場合は監督員と協議のうえ施工します。</p> <p>③～⑤ (略)</p> <p><u>(5)-4 管の接合</u></p> <p>①～③ (略)</p> <p>④ フランジ継手の接合方法については、一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会「フランジ形ダクタイル鉄管接合要領書」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。</p> <p><u>(1) フランジ継手 (RF-RF) の場合</u></p> <p style="text-align: center;">標準締め付けトルク</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>ボルトの呼び</th> <th>標準締め付けトルク(N・m)</th> <th>使用区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50～200</td> <td>M16</td> <td>60</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>250・300</td> <td>M20</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td>350・400</td> <td>M22</td> <td>120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>450～600</td> <td>M24</td> <td>180</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>(2) フランジ継手 (RF-GF メタルタッチ) の場合</u></p> <p>接合状態の確認は、すきまゲージにて円周4ヶ所測定し、1mm厚のすきまゲージが入らないことを確認し、チェックシートへ記入します。</p> <p><u>(5)-5 仕切弁設置工</u></p> <p>①～④ (略)</p> <p>⑤ 埋設深が深い仕切弁や割T字<u>管</u>に付属する仕切弁、V-K I N Gソフト仕切弁を設置した場合は、鞘管を用いて配水管を防護します。</p> <p>⑥ 弁筐蓋の裏に仕切弁の回転数、口径、<u>さらに、消火栓用仕切弁には㊸、排水用仕切弁には㊸の刻印</u>を表示した銘板を取り付けます。</p> <p>⑦～⑧ (略)</p>	呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分	50～200	M16	60	○	250・300	M20	90		350・400	M22	120		450～600	M24	180		<p>⑥～⑨ (略)</p> <p><u>5)-3 管の切断</u></p> <p>① (略)</p> <p>② 鋳鉄管の切管の有効長最小長さは、概ね1mとし、管種・口径毎に参考として定められている有効長の最小長さを下回らないように<u>します</u>。 _____。ただし、それが困難な場合は監督員と協議のうえ施工します。</p> <p>③～⑤ (略)</p> <p><u>5)-2 管の接合</u></p> <p>①～③ (略)</p> <p>④ フランジ継手の接合方法については、一般社団法人 日本ダクタイル鉄管協会「フランジ形ダクタイル鉄管接合要領書」の最新版に準拠し、下記のとおり管理します。</p> <p><u>1) フランジ継手 (RF-RF) の場合</u></p> <p style="text-align: center;">標準締め付けトルク</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>ボルトの呼び</th> <th>標準締め付けトルク(N・m)</th> <th>使用区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50～200</td> <td>M16</td> <td>60</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>250・300</td> <td>M20</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td>350・400</td> <td>M22</td> <td>120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>450～600</td> <td>M24</td> <td>180</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>2) フランジ継手 (RF-GF メタルタッチ) の場合</u></p> <p>接合状態の確認は、すきまゲージにて円周4ヶ所測定し、1mm厚のすきまゲージが入らないことを確認し、チェックシートへ記入します。</p> <p><u>5)-5 仕切弁設置工</u></p> <p>①～④ (略)</p> <p>⑤ 埋設深が深い仕切弁や割T字<u>管</u>に付属する仕切弁、V-K I N Gソフト仕切弁を設置した場合は、鞘管を用いて配水管を防護します。</p> <p>⑥ 弁筐蓋の裏に仕切弁の回転数、口径等 _____を表示した銘板を取り付けます。</p> <p>⑦～⑧ (略)</p>	呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分	50～200	M16	60	○	250・300	M20	90		350・400	M22	120		450～600	M24	180	
呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分																																						
50～200	M16	60	○																																						
250・300	M20	90																																							
350・400	M22	120																																							
450～600	M24	180																																							
呼び径	ボルトの呼び	標準締め付けトルク(N・m)	使用区分																																						
50～200	M16	60	○																																						
250・300	M20	90																																							
350・400	M22	120																																							
450～600	M24	180																																							

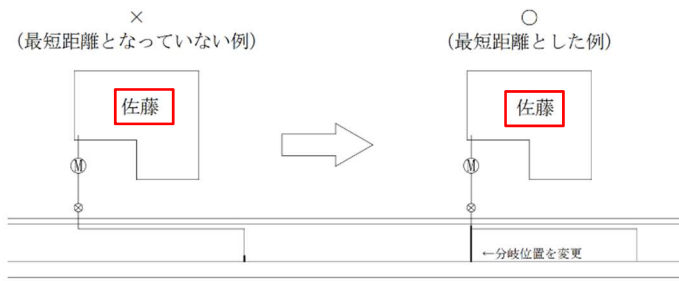
改訂後

(5)-6 給水管連絡工

- ① (略)
- ② 分岐位置は、他の給水装置や配水管の受口から 30 cm以上離し、給水接続箇所からなるべく離さないよう 水平距離で 50 cm以内にし、50 cmを超える場合は監督員に連絡し指示を受けます。



- ③ 接続する給水管が家屋の間口以外から分岐している場合は、宅地内止水栓や給水接続箇所から最短距離となるように分岐位置を変更し、分岐位置については監督員に連絡し指示を受けます。



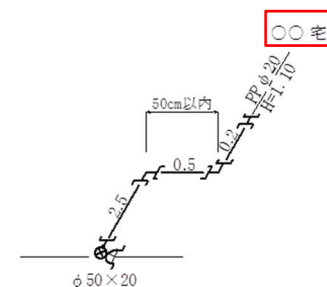
④～⑦ (略)

- ⑧ 給水管を切替えるときは、原則、取水位置より遠い給水管から切替えるものとし、定期的に残留塩素濃度を確認しながら作業します。
- ⑨ 配水管のポリエチレンスリーブ又は浸透防止スリーブを切断した場合には、分止水栓用防食フィルムと重ね合うように被覆し直し確実に密着させます。

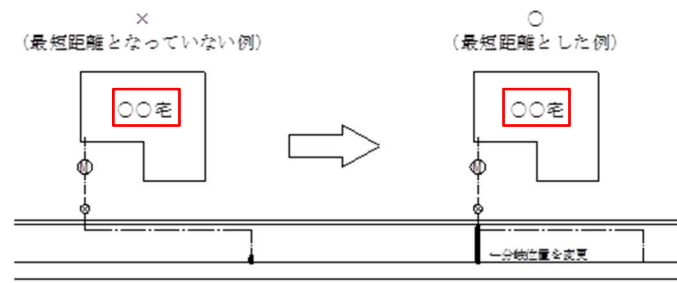
現 行

5)-6 給水管連絡工

- ① (略)
- ② 分岐位置は、他の給水装置や配水管の受口から 30 cm以上離し、給水接続箇所からなるべく離さないよう _____ 50 cm以内にし、50 cmを超える場合は監督員に連絡し指示を受けます。



- ③ 接続する給水管が家屋の間口以外から分岐している場合は、宅地内止水栓や給水接続箇所から最短距離となるように分岐位置を変更し、分岐位置については監督員に連絡し指示を受けます。



④～⑦ (略)

(新設)

(新設)

改訂後	現 行
<p><u>(5)-7 既設管との連絡</u> ①～⑦ (略)</p> <p><u>(5)-8 不断水連絡工</u> ①～④ (略)</p> <p><u>(5)-9 管凍結工</u> ①～② (略)</p> <p>③ フランジT字管のフランジ側を凍結する場合は、<u>既存のボルト・ナットが焼き付けを起し操作できなくなる恐れがあるため、凍結作業をする前に既存のボルト・ナットをはずして継手部分を清掃した後、</u>焼き付け防止措置がついたステンレス製のボルト・ナットに交換します。</p> <p>④ 凍結時間は、φ75mm 25分、φ100mm 30分、φ150mm 45分を一定の目安とし、天候や気温などで変化するため監督員と協議の<u>うえ</u>決定します。</p> <p>⑤ (略)</p> <p><u>(5)-10 エアバック式止水工</u></p> <p>① エアバッグを管内に挿入する前に、挿入機とエアバッグを組み立て、空気圧(0.1MPa)を加えて3分以上保持し、空気の漏れがないことを確認のうえ使用します。</p> <p>② エアバッグの空気圧は原則として、管内水圧に<u>0.20Mpa</u>をプラスした値で実施しますが、加圧に際しては監督員の指示に従います。</p> <p>③ 管内水圧測定用の圧力計がゼロ付近を示したり、下端にあった挿入機のスライドバーが上昇した場合は、バッグが水流方向と逆に入っている可能性が大きいので、監督員と協議のうえ調整し直します。</p> <p>④ 施工中は、止水状況に異常がないことを管内水圧、エアバッグの空気圧等により、常時監視します。なお、異常がある場合、監督員に報告し、その指示に従います。</p> <p>⑤ サドル付分水栓等で止水の確認をしてから管の切断、接続を行い、エアバッグを撤去する場合は、ウォーターハンマーが発生しないようにゆっくり空気を開放します。</p> <p>⑥ <u>止水確認用のサドル付分水栓は呼び径φ75・100の分岐径はφ20、呼び径φ150の分岐径はφ25を目安とします。</u></p> <p>⑦ <u>管切断位置は、ストッパーサドルの中心から呼び径φ75・100は60cm、呼び径φ150は80cmを離すようにします。</u></p> <p><u>(注) 使用しない項目については、斜線を引くこと。</u></p>	<p><u>(5)-7 既設管との連絡</u> ①～⑦ (略)</p> <p><u>(5)-8 不断水連絡工</u> ①～④ (略)</p> <p><u>(5)-9 管凍結工</u> ①～② (略)</p> <p>③ フランジT字管のフランジ側を凍結する場合は、<u>凍結作業をする前に既存のボルト・ナットをはずして清掃した後、さらに、既存のボルト・ナットが焼き付けを起し操作できなくなる恐れがあるため、事前に</u>焼き付け防止措置がついたステンレス製のボルト・ナットに交換します。</p> <p>④ 凍結時間は、φ75mm 25分、φ100mm 30分、φ150mm 45分を一定の目安とし、天候や気温などで変化するため監督員と協議の<u>上</u>、決定します。</p> <p>⑤ (略)</p> <p><u>(5)-10 エアバック式止水工</u></p> <p>① エアバッグを管内に挿入する前に、挿入機とエアバッグを組み立て、空気圧(0.1MPa)を加えて3分以上保持し、空気の漏れがないことを確認のうえ使用します。</p> <p>② エアバッグの空気圧は原則として、管内水圧に<u>0.15MPa</u>をプラスした値で実施しますが、加圧に際しては監督員の指示に従います。</p> <p>③ 管内水圧測定用の圧力計がゼロ付近を示したり、下端にあった挿入機のスライドバーが上昇した場合は、バッグが水流方向と逆に入っている可能性が大きいので、監督員と協議のうえ調整し直します。</p> <p>④ 施工中は、止水状況に異常がないことを管内水圧、エアバッグの空気圧等により、常時監視します。なお、異常がある場合、監督員に報告し、その指示に従います。</p> <p>⑤ サドル付分水栓等で止水の確認をしてから管の切断、接続を行い、エアバッグを撤去する場合は、ウォーターハンマーが発生しないようにゆっくり空気を開放します。</p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(新設)</u></p> <p><u>(注) 使用しない項目については、斜線を引くこと。</u></p>

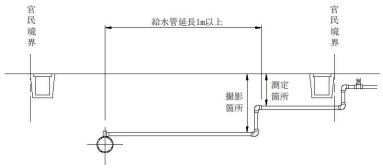
改訂後	現 行
<p>(6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工 ①～⑮ (略)</p> <p>(7) 舗装工 ①～⑪ (略)</p>	<p>(6) 埋戻工・路盤工・仮復旧工 ①～⑮ (略)</p> <p>(7) 舗装工 ①～⑪ (略)</p>

改訂後				現行				
掘削工	バックホウ掘削状況	バックホウ掘削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	掘削工	バックホウ掘削状況	バックホウ掘削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。	管理No. 毎	
	掘削残土積込状況	掘削残土積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			掘削残土積込状況	掘削残土積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。		
	人力床堀状況	人力床堀状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	<u>監督員の指示による</u>		人力床堀状況	人力床堀状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。		
	木製、軽量鋼矢板土留工設置状況	土留工の設置状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			木製、軽量鋼矢板土留工設置状況	土留工の設置状況を_____撮影する。	監督員の指示による	
	出来形管理	掘削幅及び掘削深さの出来形を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	管理No. 毎		出来形管理	掘削幅及び掘削深さの出来形を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、 <u>_____背景もいれて</u> 撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	管理No. 毎	
布設工 (切替含む)	挿絵 (管割図)		管理No. 毎	布設工 (切替含む)	挿絵 (管割図)		管理No. 毎	
	配管状況	異形管は、個々の配管部材が明確にわかるように、 <u>進行方向及び横方向から撮影し、必要に応じて、逆方向から撮影する。</u> _____黒板に配管立体図及び管 No. 等 <u>(PP 施工時には前に施工した日付)</u> を記入し、記載内容がわかるように撮影する。	及び異形管部		配管状況	異形管は、個々の配管部材が明確にわかるように、 <u>_____必要に応じて、別方向や拡大写真も撮影する。</u> 黒板に配管立体図及び管 No. 等 _____を記入し、記載内容がわかるように撮影する。		及び異形管部
		既設地下埋設物と近接する場合、構造物の形状がわかるように黒板に略図を記入し、土被り、クリアランスを撮影する。 <u>また、排水管を設置する際に側溝等既設構造物を一部取り壊した時には不可視部分の復旧状況を撮影する。</u> <u>既設管との接合の際は挿口又は受口の清掃、補修等の状況を撮影すること。</u>	<u>1箇所</u> <u>毎</u>			既設地下埋設物と近接する場合、構造物の形状がわかるように黒板に略図を記入し、土被り、クリアランスを撮影する。 <u>_____</u> <u>_____</u> <u>_____</u> <u>_____</u>		
					<u>(新設)</u>	<u>(新設)</u>		

改訂後				現行				
布設工 (切替含む)	管明示テープ貼付状況			管明示テープ貼付状況				
	ポリエチレンスリーブ被覆状況	ポリエチレンスリーブが全体に被覆されたことがわかるように撮影する。また、PP管の場合はロケーティングワイヤーの <u>管頂部への設置</u> 状況も撮影する。	管理No. 毎 及び異形管部	ポリエチレンスリーブ被覆状況	ポリエチレンスリーブが全体に被覆されたことがわかるように撮影する。また、PP管の場合はロケーティングワイヤー <u>巻付</u> _____ 状況も撮影する。	管理No. 毎 及び異形管部		
	鋳鉄管吊込み据付工 PP、VP、鋼管据付工	吊込み据付状況等を撮影する。 <u>鋼管ねじ切りをして露出した部分に防食テープを巻き付けた場合は、巻き付け後に撮影する。</u>	管理No. 毎 及びライナ設置箇所 (継輪は1箇所毎)	鋳鉄管吊込み据付工 PP、VP、鋼管据付工	吊込み据付状況等を撮影する。 _____	管理No. 毎		
	GX、NS 継手工接合状況	<u>挿入量を明示した線に正確に合わせて接合しているか確認できる写真を横方向から撮影する。</u> <u>継輪を設置する場合は、両挿し口端の間隔を撮影する。</u>		GX、NS 継手工接合状況	<u>GX、NS 継手工接合状況を撮影する。</u> _____		(継輪は1箇所毎)	
	<u>(削除)</u>			<u>GX、NS 継手工チェック状況</u>	<u>GX、NS 継手工のチェック状況を撮影する。また、継輪施工時には、挿し口間隔も撮影する。</u>			
	継手工締付状況	PP 継手工のトルク管理を撮影する	管理No. 毎 切替箇所毎	継手工締付状況	PP 継手工のトルク管理を撮影する	管理No. 毎 切替箇所毎	<u>給水箇所毎</u>	
	鋳鉄管切断・溝切加工状況			鋳鉄管切断・溝切加工状況				
	切管補修状況			切管補修状況				
GX、NS 継手挿口加工状況			GX、NS 継手挿口加工状況					
切管寸法測定	<u>ダクタイト鋳鉄管の切管を作成した際には、黒板に略図及び管No.、寸法を記入し、受口を左側にした切管寸法測定を撮影する。</u>	1箇所毎	切管寸法測定	_____ 黒板に略図及び _____ 寸法を記入し、 _____ 切管寸法測定を撮影する。	1箇所毎			

改訂後				現行			
布設工 (切替含む)	仕切弁設置工	座台、仕切弁管を <u>水平に設置していることが確認できるように水平器等を設置して</u> 各設置完了を撮影する。(黒板には本管口径を記入すること。)また、仕切弁管を切断した場合、補修状況を撮影する。	1基毎 (補修状況については1箇所以上)	布設工 (切替含む)	仕切弁設置工	座台、仕切弁管の_____各設置完了を撮影する。(黒板には本管口径を記入すること。)また、仕切弁管を切断した場合、補修状況を撮影する。	1基毎 (補修状況については1箇所以上)
	バタフライ弁設置工				バタフライ弁設置工		
	インサートバルブ設置工				インサートバルブ設置工		
	空気弁設置工				空気弁設置工		
	弁柵設置工				弁柵設置工		
	エアバック式止水工		1箇所毎		エアバック式止水工		1箇所毎
	管凍結工	作業状況 <u>及び解氷状況</u> を撮影する。			管凍結工	作業状況_____を撮影する。	
	撤去工	<u>廃止管や仕切弁管等の撤去状況_____</u> を撮影する。			撤去工	_____撤去状況、 <u>撤去完了</u> を撮影する。	
	水替工	<u>配管作業時に沈砂柵による</u> 排水処理状況を撮影する。	1箇所以上		水替工	<u>水替、_____</u> 排水処理状況を撮影する。	1箇所以上
	土被り測定	土被りの出来形管理を管理地点もわかるように背景をいれて撮影する。	管理No. 毎 及び50m毎 <u>既設管接合部</u>		土被り測定	土被りの出来形管理を管理地点もわかるように背景をいれて撮影する。	管理No. 毎 及び50m毎 _____
オフセット測定			オフセット測定				
管洗浄工			管洗浄工				
水圧検査 (検査員立会)	水圧検査	水圧検査範囲、管種、口径、延長、検査水圧、開始時間、終了時間を黒板に明記し、水圧計設置位置がわかる <u>ように背景もいれて</u> 撮影する。	監督員の指示による	水圧検査 (検査員立会)	水圧検査	水圧検査範囲、管種、口径、延長、検査水圧、開始時間、終了時間を黒板に明記し、水圧計設置位置がわかる <u>遠景、水圧計の目盛がわかる近景</u> を撮影する。	監督員の指示による

改訂後				現行			
水質検査	残留塩素濃度確認 <u>色、濁りの確認</u>	布設管を既設管及び給水管に連絡する前に、残留塩素濃度を測定及び <u>色、濁りが異常でないこと</u> を確認し撮影する。(監督員立会)	監督員の指示による	水質検査	残留塩素濃度確認 <u>濁度、色度確認</u>	布設管を既設管及び給水管に連絡する前に、残留塩素濃度を測定及び <u>濁度、色度</u> を______を確認し撮影する。(監督員立会)	監督員の指示による
給水管連絡工 (給水管取替工)	給水管連絡状況 (給水管取替状況)	分水栓用防食フィルム設置前に給水管の配管状況がわかるように、黒板に配管立体図、 <u>位置等</u> を記入し、撮影する。	1箇所毎	給水管連絡工 (給水管取替工)	給水管連絡状況 (給水管取替状況)	分水栓用防食フィルム設置前に給水管の配管状況がわかるように、黒板に配管立体図______を記入し、撮影する。	1箇所毎
	サドル穿孔状況		給水口径毎1箇所	サドル穿孔状況			給水口径毎1箇所
	密着コア挿入状況			密着コア挿入状況			
	<u>継手工締付状況</u>	<u>PP継手工のトルク管理を撮影する。</u>		<u>(新設)</u>			
	<u>防食フィルム設置状況</u>	<u>分水栓用防食フィルム設置完了を撮影する。</u> <u>※土被り測定と同写真でも可とする。</u>	1箇所毎	<u>(新設)</u>			
土被り測定	<u>給水管を1.0m以上布設する場合は、既設給水管との接続箇所の直近まで道路上の基準の土被りを確保していることが確認できる位置で給水管の土被りを撮影する。それ以外は既設給水管との接合箇所の土被りを撮影する。</u> <u>※給水管を1.0m以上布設する場合の、既設給水管との接合箇所については、測定のみとし完成図面に土被りの測定値を記入する。</u>	1箇所毎	土被り測定	<u>既設給水管との接合箇所の土被り及び分水栓用防食フィルム設置完了を撮影する。</u> _____ _____ _____ _____ _____ _____	1箇所毎		



改訂後				現行			
給水管連絡工 (給水管取替工)	<u>民地復旧状況</u>	<u>給水管取替工等において民地を掘削した場合、復旧前、復旧後を撮影する。融雪設備を有する場所は特に注意すること。</u>	1箇所 毎	給水管連絡工 (給水管取替工)	<u>(新設)</u>		
埋戻工	砂埋戻締固め	管周りの締固め状況を撮影する。各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	埋戻工	砂埋戻締固め	管周りの締固め状況を撮影する。各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を_____撮影する。	管理No. 毎
	出来形管理	砂埋戻し厚の測定状況を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、 <u>位置がわかるように</u> 背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。			出来形管理	砂埋戻し厚の測定状況を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ_____背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	埋設標識シート布設完了	埋設標識シート布設完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			埋設標識シート布設完了	埋設標識シート布設完了を_____撮影する。	
路盤工	下層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	路盤工	下層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を_____撮影する。	管理No. 毎
	下層路盤工 出来形管理	下層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、 <u>位置がわかるように</u> 背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。			下層路盤工 出来形管理	下層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ_____背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	上層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			上層路盤工	各層毎(1層目→2層目→3・・・)に転圧状況、転圧完了(各層の締固め厚測定)を_____撮影する。	
	上層路盤工 出来形管理	上層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ、 <u>位置がわかるように</u> 背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 影響幅まで上層路盤を施工する場合、上層路盤幅を撮影する。			上層路盤工 出来形管理	上層路盤厚を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、かつ_____背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。 影響幅まで上層路盤を施工する場合、上層路盤幅を撮影する。	

改訂後				現行			
路盤工	仮復旧工	As 敷均し状況、転圧状況、転圧完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	路盤工	仮復旧工	As 敷均し状況、転圧状況、転圧完了を <u>_____</u> 撮影する。	管理No. 毎
路盤検査 (検査員 立会)	<u>路盤検査</u>	監督員の指示により、 <u>路盤の幅、厚さの</u> 測定状況を撮影する。	監督員 の指示 による	路盤検査 (検査員 立会)	<u>(新設)</u>	監督員の指示により、 <u>各</u> 測定状況を撮影する。	監督員 の指示 による
舗装工	影響幅切断状況	影響幅切断状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	舗装工	影響幅切断状況	影響幅切断状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。	管理No. 毎
	舗装版破碎状況	舗装版破碎状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎		舗装版破碎状況	舗装版破碎状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。	管理No. 毎
	舗装版積込状況	舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			舗装版積込状況	舗装版積込状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。	
	不陸整正、転圧 状況	不陸整正、転圧状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、 <u>かつ、位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			不陸整正、転圧 状況	不陸整正、転圧状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。	
	不陸整正、転圧 完了	不陸整正・転圧完了を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、 <u>かつ、位置がわかるように</u> 背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。			不陸整正、転圧 完了	不陸整正・転圧完了を、作業区間全体の仕上がりがわかるように、 <u>かつ</u> _____背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。	
	舗装幅測定	舗装幅測定の出来形管理を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			舗装幅測定	舗装幅測定の出来形管理を_____撮影する。	
	舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を_____撮影する。	
	既設舗装版洗浄 状況	既設舗装版洗浄状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			既設舗装版洗浄 状況	既設舗装版洗浄状況を_____撮影する。	
	サイドタックコ ート塗布完了	サイドタックコート塗布完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。(既設舗装及び構造物) ※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。			サイドタックコ ート塗布状況	サイドタックコート塗布状況を_____撮影する。(既設舗装及び構造物)	

改訂後				現行			
舗装工	As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。	管理No. 毎	舗装工	As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を_____撮影する。	管理No. 毎
	As 転圧状況	As 合材の転圧状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			As 転圧状況	As 合材の転圧状況を_____撮影する。	
	As 転圧完了	As 合材の転圧完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。			As 転圧完了	As 合材の転圧完了を_____撮影する。	
	区画線工	区画線工の作業状況_____を撮影する。	区画線工		区画線工の作業状況、 <u>完了</u> を撮影する。	管理No. 毎又は 1箇所 毎	
舗装工 (品質管理)	散布量検収マツト測定		管理No. 毎	舗装工 (品質管理)	散布量検収マツト測定		管理No. 毎
	乳剤散布状況	乳剤散布状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。(検収マツトは一列に3枚設置する。)			乳剤散布状況	乳剤散布状況を_____撮影する。(検収マツトは一列に3枚設置する。)	
	散布量測定	各管理No.毎に3箇所の測定結果を現場で撮影する。(散布後の検収マツト重量測定時に計算により求められた散布量(l/m^2)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マツトは、はかりの横に置き撮影する。) <u>散布量管理表を写真の手前につけて整理する。</u>			散布量測定	各管理No.毎に3箇所の測定結果を現場で撮影する。(散布後の検収マツト重量測定時に計算により求められた散布量(l/m^2)と設計値を黒板に明記し、散布量測定していない他の検収マツトは、はかりの横に置き撮影する。)	
	現場到着温度測定	As 合材の現場到着温度を <u>位置がわかるように背景をいれて</u> 撮影する。 <u>現場到着温度測定表を写真の手前につけて整理する。</u>			現場到着温度測定	As 合材の現場到着温度を_____撮影する。	
	敷均し温度測定	As 合材の敷均し温度を <u>位置がわかるように背景をいれて</u> 撮影する。 <u>敷均し温度測定表を写真の手前につけて整理する。</u>			敷均し温度測定	As 合材の敷均し温度を_____撮影する。	

改訂後				現行			
切削オーバーレイ工	路面切削機運搬状況		<u>監督員の指示による</u>	切削オーバーレイ工	路面切削機運搬状況		<u>管理No. 毎</u>
	路面切削状況	路面切削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制、かつ、位置がわかるように背景もいれて撮影する。 すりつけがある場合、既設舗装とのすりつけ状況を撮影する。		路面切削状況	路面切削状況を、安全管理の状況などを含めた作業体制 <u>全体がわかるように</u> 撮影する。 すりつけがある場合、既設舗装とのすりつけ状況を撮影する。		
	路面洗浄状況	路面切削後、路面洗浄機等で舗装版を洗浄した状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		路面洗浄状況	路面切削後、路面洗浄機等で舗装版を洗浄した状況を_____撮影する。		
	舗装幅測定	必要に応じて舗装幅測定の出来形管理を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		舗装幅測定	必要に応じて舗装幅測定の出来形管理を_____撮影する。		
	舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		舗装厚測定	舗装厚測定の出来形管理を_____撮影する。		
	<u>(削除)</u>			<u>成形目土工</u>	<u>成形目地設置状況を全体の仕上がりがわかるように、かつ背景もいれて撮影する。必要に応じて、遠景・近景を撮影する。</u>		
	サイドタックコート塗布完了	サイドタックコート塗布完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。(既設舗装及び構造物) <u>※側溝等既設構造物がある場合は特に既設構造物への塗布状況を撮影する。</u>		サイドタックコート塗布状況	サイドタックコート塗布状況を_____撮影する。(既設舗装及び構造物)		
	As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		As 敷均し状況	As 合材の敷均し状況を_____撮影する。		
	As 転圧状況	As 合材の転圧状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		As 転圧状況	As 合材の転圧状況を_____撮影する。		
	As 転圧完了	As 合材の転圧完了を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。		As 転圧完了	As 合材の転圧完了を_____撮影する。		

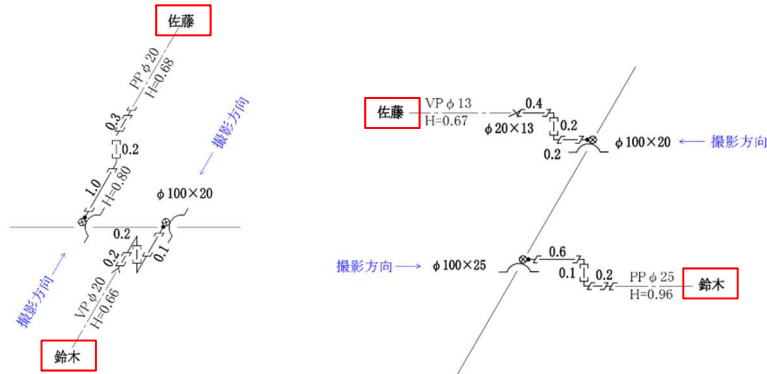
改訂後				現行			
切削オーバーレイ工 (品質管理)	散布量検収マツト測定		<u>監督員の指示による</u>	切削オーバーレイ工 (品質管理)	散布量検収マツト測定		<u>管理No. 毎</u>
	乳剤散布状況	乳剤散布状況を <u>位置がわかるように背景もいれて</u> 撮影する。(検収マツトは一列に3枚設置する。)		乳剤散布状況を_____撮影する。(検収マツトは一列に3枚設置する。)			
	散布量測定			散布量測定			
	現場到着温度測定	As 合材の現場到着温度を <u>位置がわかるように背景をいれて</u> 撮影する。		As 合材の現場到着温度を_____撮影する。			
	敷均し温度測定	As 合材の敷均し温度を <u>位置がわかるように背景をいれて</u> 撮影する		As 合材の敷均し温度を_____撮影する			
舗装工 (完了後)			舗装工 (完了後)				
エアモルタル充填工	エアモルタル材料検査		1箇所毎	エアモルタル充填工	エアモルタル材料検査		1箇所毎
	エアモルタル充填配管状況			エアモルタル充填配管状況			
	エアモルタル注入状況			エアモルタル注入状況			
	エアモルタル充填完了状況			エアモルタル充填完了状況			
	<u>エアモルタル充填配管撤去状況</u>	<u>エアモルタル充填するために使用した配管及びバルブ等について舗装下30cmまで撤去した状況を標尺をつけて撮影する。</u>			<u>(新設)</u>		
エアモルタル充填工 (品質管理)	湿潤密度測定	<u>各項目を測定し撮影する。(監督員立会)</u>	施工日毎 供試体3本 材令28日	エアモルタル充填工 (品質管理)	湿潤密度測定	<u>各項目を測定し撮影する。(監督員立会)</u>	施工日毎 供試体3本 材令28日
	空気量測定			<u>コア穴乾燥状況を撮影する。</u>			
	フロー値測定			<u>コア穴乳剤塗布状況を撮影する。</u>			
	一軸圧縮強度測定			<u>コア穴締め固め状況を撮影する。</u>			
その他			その他				

改訂後

② 撮影方向

工事写真は、起点から終点に向かって撮影し、全工種において方向を統一して撮影します。なお、異形管部を撮影する場合は黒板の略図はそのまま横方向からも撮影し、必要に応じて逆方向からも撮影します。

給水管連絡工及び給水管取替工は、下記の図を参考にして新設管から宅地に向かって撮影します。



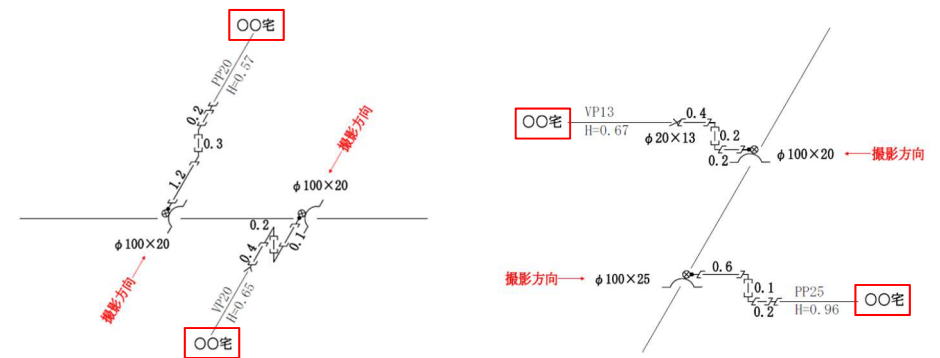
(3)～(6) (略)

現行

② 撮影方向

工事写真は、起点から終点に向かって撮影し、全工種において方向を統一して撮影すること。なお、配管が障害物等により見えない場合は、黒板の略図はそのまま横・逆方向からも撮影し、特に異形管は明確に確認できるようにすること。

給水管連絡工及び給水管取替工は、下記の図を参考にして新設管から宅地に向かって撮影すること。



(3)～(6) (略)

改 訂 後	現 行
<p>5_ 出来形管理計画</p> <p>1_ 工事数量表</p> <p>2_ 掘削土工・土被り管理図表</p> <p>3_ 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表</p> <p>4_ 路盤検査結果表</p> <p>5_ 舗装工管理図表</p> <p>6_ 切取供試体厚さ測定管理図表</p>	<p>5_ 出来形管理計画</p> <p>1) 工事数量表</p> <p>2) 掘削土工・土被り管理図表</p> <p>3) 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表</p> <p>4) 路盤検査結果表</p> <p>5) 舗装工管理図表</p> <p>6) 切取供試体厚さ測定管理図表</p>

改訂後

(様式-7の2)

1. 工事数量表 (例)

主任技術者 _____ 印
現場代理人 _____ 印
測定者 _____ 印

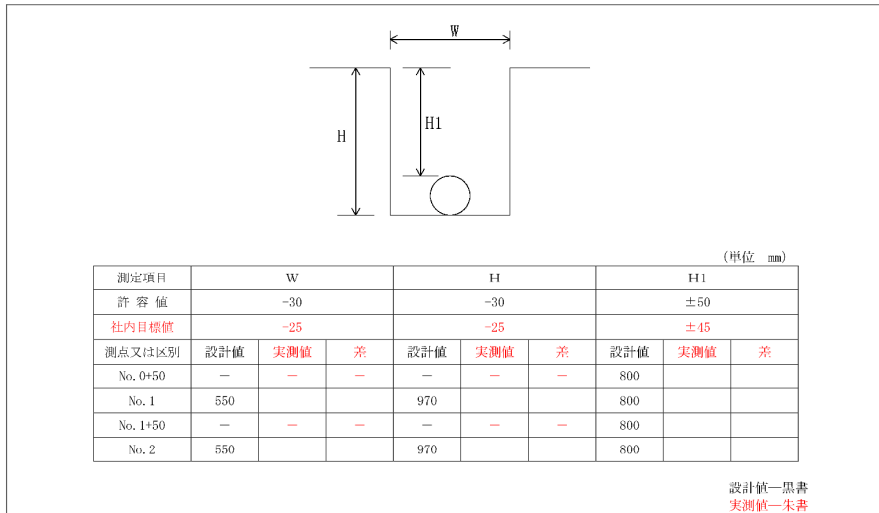
工種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘要
布設	配水管 DGXE_	φ150	m	240.0			
	" DKE_	φ150	"	5.0			
	" DGXE_	φ100	"	7.0			
	" PP	φ50	"	7.0			
設置	仕切弁 GX形7/8両受	φ150 10k	基	1			
	" SS弁	φ150 7.5k	"	3			
	" SS弁	φ100 7.5k	"	1			
	" SS弁	φ75 7.5k	"	2			消火栓用1基 排水用1基
	" SS弁 (V・S7/8)	φ50 7.5k	"	1			

設計値—黒書
実測値—朱書

※布設延長の実測値は小数点以下第2位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。

(様式-7の5)

2. 掘削土工・土被り管理図表 (例)



現行

(様式-10の2)

1. 工事数量表 (例)

主任技術者 _____ 印
現場代理人 _____ 印
測定者 _____ 印

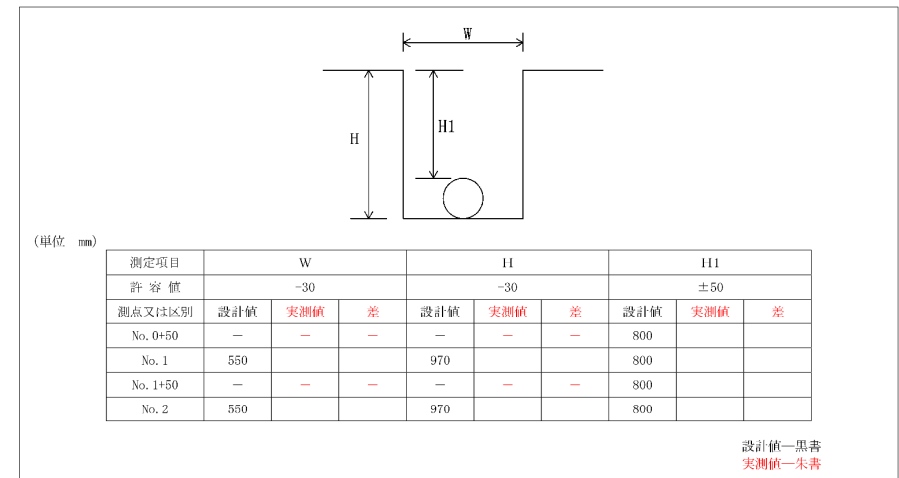
工種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘要
布設	配水管 DGXE- S	φ150	m	240.0			
	" DKE- 3	φ150	"	5.0			
	" DGXE- S	φ100	"	7.0			
	" PP	φ50	"	7.0			
設置	仕切弁 GX形7/8両受	φ150 10k	基	1			
	" SS弁	φ150 7.5k	"	3			
	" SS弁	φ100 7.5k	"	1			
	" SS弁	φ75 7.5k	"	2			消火栓用1基 排水用1基
	" SS弁 (V・S7/8)	φ50 7.5k	"	1			

設計値—黒書
実測値—朱書

※布設延長の実測値は小数点以下第2位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。

(様式-10の5)

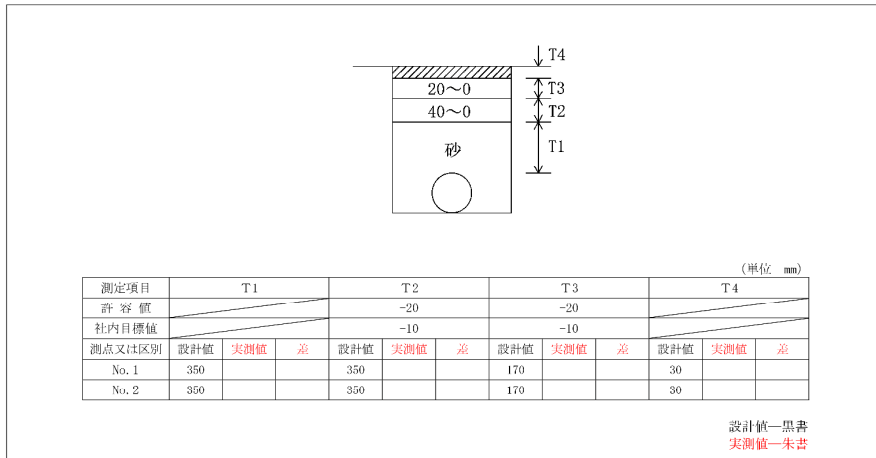
2. 掘削土工・土被り管理図表 (例)



改訂後

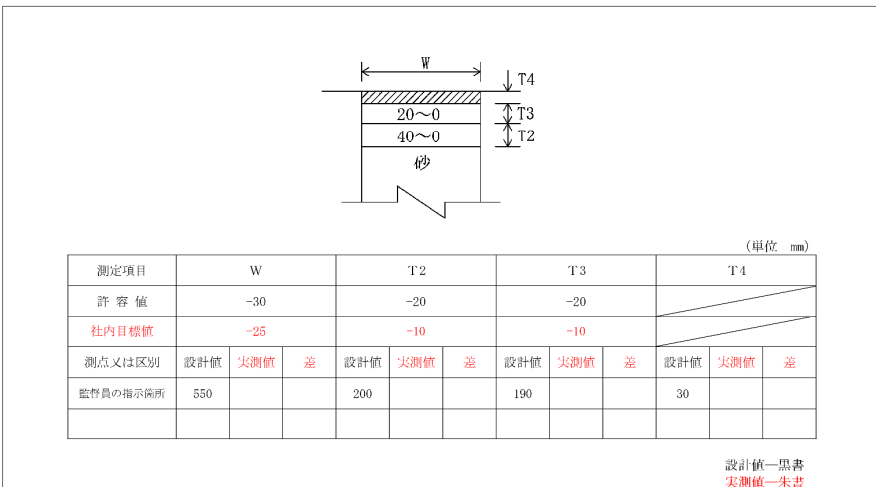
(様式-7の6-1)

3 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表 (例)



(様式-7の7-1)

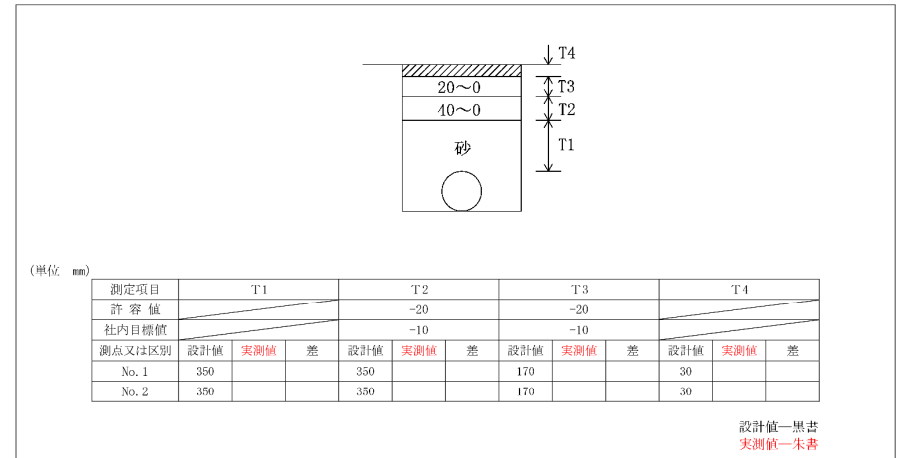
4 路盤検査結果表 (例)



現行

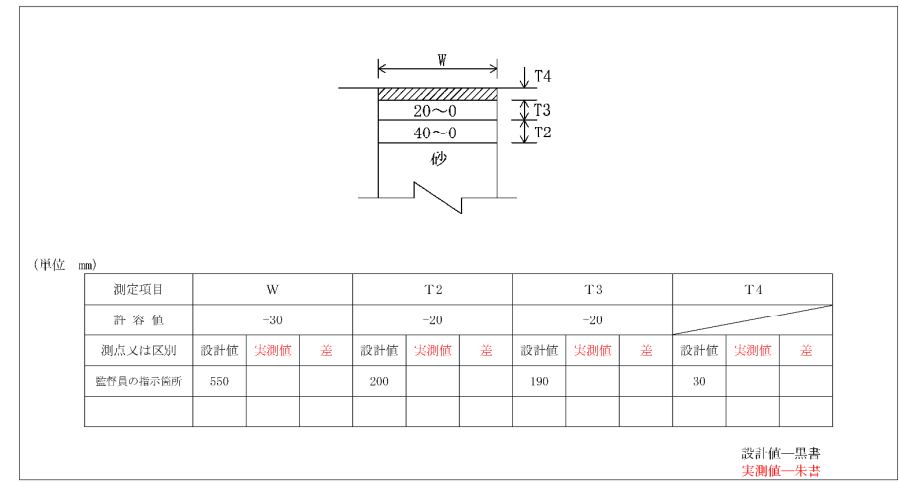
(様式-10の7-1)

3 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表 (例)



(様式-10の7-1)

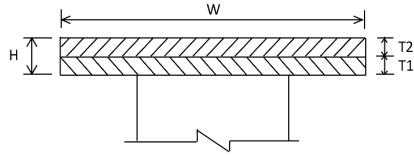
4 路盤検査結果表 (例)



改訂後

(様式-7の8)

5 舗装工管理図表 (例)



(単位 mm)

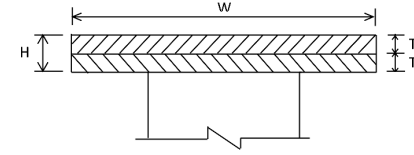
測定項目	W			H			T1			T2		
許容値	-25			-は認めない			-5			-5		
社内目標値	-20			-は認めない			-4			-4		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 1	1,500			70			40			30		
No. 2	1,500			70			40			30		

設計値—黒書
実測値—朱書

現行

(様式-10の8)

5.舗装工管理図表 (例)



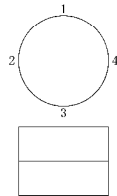
(単位 mm)

測定項目	W			H			T1			T2		
許容値	-25			-は認めない			-5			-5		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 1	1,500			70			40			30		
No. 2	1,500			70			40			30		

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7の11)

6 切取供試体厚さ測定管理図表



再生密粒度 As (13F) 30mm
再生密粒度 As (13) 40mm

施工年月日 (元号) 年 月 日 ~ 月 日
切取年月日 (元号) 年 月 日
測定年月日 (元号) 年 月 日

(単位 mm)

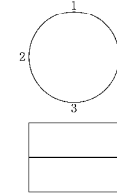
測定項目	T1 (再生密粒度 As 13F)						T2 (再生密粒度 As 13)						T (表層+基層)								
許容値	-5						-5						-は認めない								
社内目標値	-4						-4						-は認めない								
測点又は区別	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差
監督員の指示箇所	30	1	2	3	4	平均		40	1	2	3	4	平均		70	1	2	3	4	平均	

設計値—黒書
実測値—朱書

※実測値の平均は小数点以下を切り捨てること。

(様式-10の11)

6.切取供試体厚さ測定管理図



再生密粒度 As (13F) 30mm
再生密粒度 As (13) 40mm

施工年月日 (元号) 年 月 日 ~ 月 日
切取年月日 (元号) 年 月 日
測定年月日 (元号) 年 月 日

(単位 mm)

測定項目	T1 (再生密粒度 As 13F)						T2 (再生密粒度 As 13)						T (表層+基層)								
許容値	-5						-5						-は認めない								
測点又は区別	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差
監督員の指示箇所	30	1	2	3	4	平均		40	1	2	3	4	平均		70	1	2	3	4	平均	

設計値—黒書
実測値—朱書

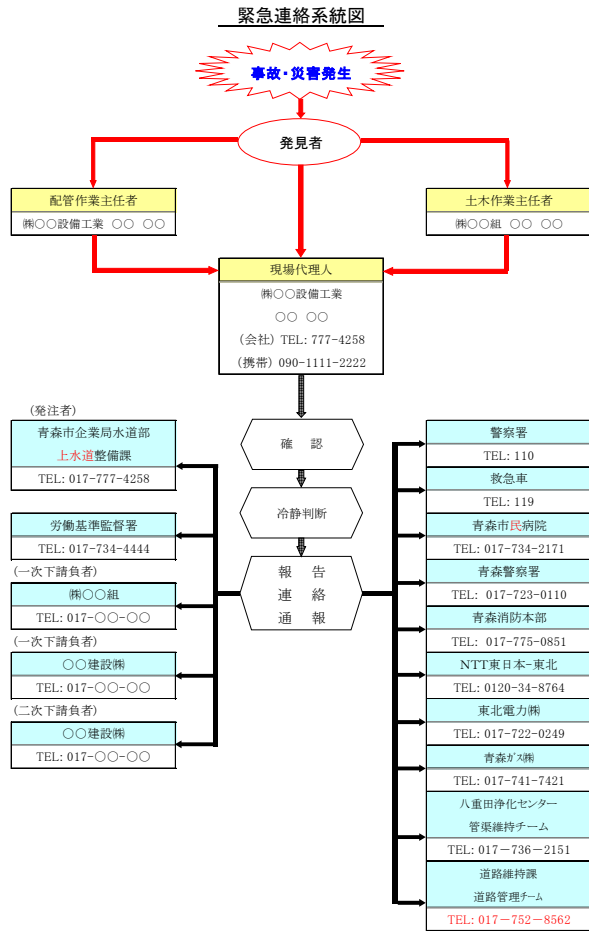
(新設)

改 訂 後	現 行
6__品質管理計画 (略)	6.品質管理計画 (略)
7__配管材料一覧表 (略)	7.配管材料一覧表 (略)
8__主要資材一覧表 (略)	8.主要資材一覧表 (略)
9__主要機械一覧表 (略)	9.主要機械一覧表 (略)
10__現場組織表 (略)	10.現場組織表 (略)
11__安全衛生管理 (1) 目標 (略) (2) 重点目標 (略) (3) 重大災害防止策 (略)	11.安全衛生管理 (1) 目標 (略) (2) 重点目標 (略) (3) 重大災害防止策 (略)
12__安全衛生管理組織表 (略)	12.安全衛生管理組織表 (略)

改訂後

13_緊急時連絡表

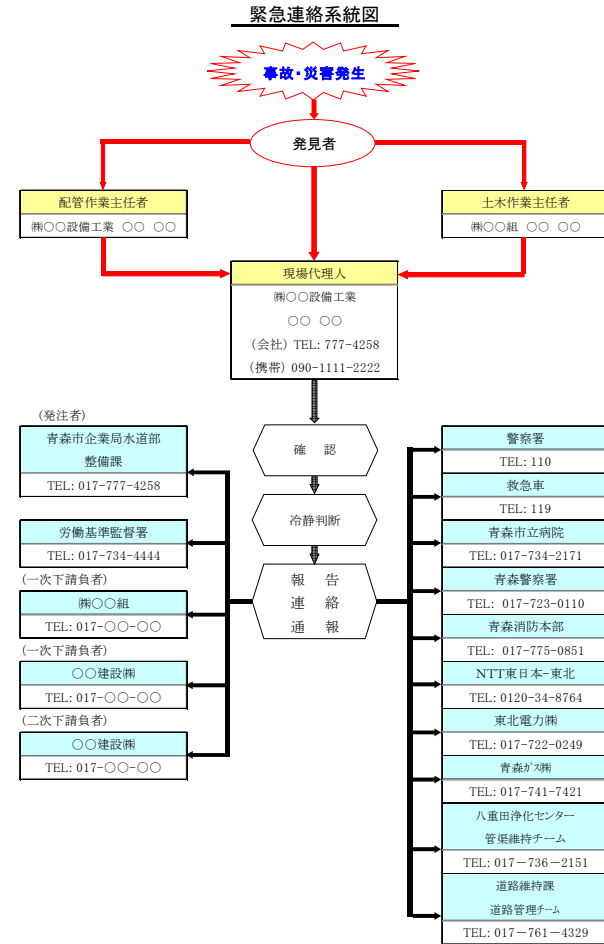
- 現場において、事故又は災害が発生した場合は、下記の連絡体制で速やかに連絡する。
- 現場には職員・労務者・機械・資材を配置させ救助・復旧に努める。また、安全施設等を設置し関係者以外の立入りを禁止する。



現 行

13_緊急時連絡表

- 現場において、事故又は災害が発生した場合は、下記の連絡体制で速やかに連絡する。
- 現場には職員・労務者・機械・資材を配置させ救助・復旧に努める。また、安全施設等を設置し関係者以外の立入りを禁止する。



改訂後	現行
<p>14_安全施設（仮設備等） 工事看板</p>	<p>14-1)_安全施設（仮設備等） 工事看板</p>
<p>14_安全施設（仮設備等） 保安施設（略）</p> <p>15_有資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー （略）</p> <p>16_再資源利用計画及び再生資源利用促進計画 （略）</p>	<p>14-2)_安全施設（仮設備等） 保安施設 （略）</p> <p>15_有資格者・技能講習修了者名簿及び資格証明書のコピー （略）</p> <p>16_再資源利用計画及び再生資源利用促進計画 （略）</p>

改訂後	現行
<p>青森市 企業局 水道部</p> <p>上水道配管工事標準仕様書等 改訂経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 41 年 配水管工事仕様書 ・ 昭和 58 年 10 月 配水管工事仕様書 (改訂版) ・ 平成 8 年 4 月 配管工事標準仕様書 ・ 平成 19 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 ・ 平成 29 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 平成 30 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 平成 31 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 令和 2 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ <u>令和 4 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版)</u> <div data-bbox="353 1134 779 1347" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">上水道配管工事標準仕様書</p> <p style="text-align: center;">令和 <u>4</u> 年 4 月 発行</p> <p style="text-align: center;">編集・発行 青森市企業局水道部</p> </div>	<p>青森市 企業局 水道部</p> <p>上水道配管工事標準仕様書等 改訂経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 41 年 配水管工事仕様書 ・ 昭和 58 年 10 月 配水管工事仕様書 (改訂版) ・ 平成 8 年 4 月 配管工事標準仕様書 ・ 平成 19 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 ・ 平成 29 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 平成 30 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 平成 31 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ 令和 2 年 4 月 上水道配管工事標準仕様書 (改訂版) ・ <u>(新設)</u> <div data-bbox="1447 1134 1872 1347" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p style="text-align: center;">上水道配管工事標準仕様書</p> <p style="text-align: center;">令和 <u>2</u> 年 4 月 発行</p> <p style="text-align: center;">編集・発行 青森市企業局水道部</p> </div>